

平成29（2017）年度
自己点検・評価報告書
（抜粋）

鎌倉女子大学 中等部・高等部

第1章 中等部 自己点検・評価

1. 教育目標

1-①	<ul style="list-style-type: none"> ・設置者の示す明確な教育方針（建学の精神）等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29（2017）年度を始めるに当たり、これまでの伝統的な教育内容に加えて、時代の変化に対応した先進的な活動をバランス良く配置するために「教育の3本柱」を設定する。 ・最初の柱は、「建学の精神にもとづく豊かな人間性の育成」とする。 ・2番目の柱は、「自立して活躍できる確かな学力の育成」とする。 ・3番目の柱は、「国際社会で活躍できる語学力・表現力の育成」とする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の柱である「建学の精神にもとづく豊かな人間性の育成」では、コミュニケーション、伝統、本物に触れるというキーワードのもとで、自らを律する道徳観、女性らしい所作、本物の美しさに感動する心の育成などを目標とした。 ・新入生を対象に新しく導入した、外部講師による「コミュニケーション講座」「エンカウンター講座」では、新しい集団の中で良好な人間関係を築くということと併せ、感謝する心や他者への配慮など、建学の精神が目指すものとの共通項が多く、生徒にとっては有意義な機会となった。 ・本物に触れる活動として中等部で行っていた校外学習「理科の日」については、1年次の観音崎、2年次の小網代の森に続き、平成29（2017）年度は3年次で生田緑地での地層観察を実施したことで、3学年分のプログラムが整った。また、芸術鑑賞についても、1年次のバレエ、2年次のオーケストラに続き、3年次で国立演芸場の落語鑑賞を導入し、3学年分のプログラムが整った。 ・2番目の柱である「自立して活躍できる確かな学力の育成」では、苦手教科を克服し、自立できる知恵と勇気、情操を身に付けるため、基礎学力の定着、家庭学習の習慣化などに重点的に取り組むこととした。 ・基礎学力の定着に向けては、日々の授業はもとより朝、帰りのショートホームルームの活用、放課後の学習支援センターを運営する提携予備校との連携強化などを通して、取り組みを深めることができた。 ・家庭学習の定着については、朝のショートホームルームを活用し、1週間の学習を振り返る「週プラン」の取り組みを始めたことで、生徒の意識も高まってきた。 ・3番目の柱の「国際社会で活躍できる語学力・表現力の育成」では、平成28（2016）年度から一部実施している新しい英語教育プログラム「鎌倉FITS」を全面的に導入し、英語教育の充実を目指すこととした。 ・英語教育に関しては、「鎌倉FITS」の多岐にわたるプログラムを導入するとともに、英語学習指導アドバイザー（金谷憲東京学芸大学名誉教授）の指導のもとで新しい指導方法の開発を行い、平成30（2018）年度から中等部に導入することとなった。次年度の取り組みが大変重要となる。

今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none">・最初の柱である「建学の精神にもとづく豊かな人間性の育成」では、今後も「本物を見せる」という観点から、体験的な学びを充実させていく。・新たに導入したプログラムも多く、個別の内容に関してはしっかりと検証し、改善していく。・英語教育プログラム「鎌倉FITS」に関しては、各取り組みの内容を精査し、効果的なプログラムを見極めて全体をスリム化していく。
---------------	--

1-②	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が定められているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に部長が全職員に示す「取組方針」にもとづき、短期目標を設定する。 ① 学力向上、進学実績向上の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・中等部を「わからないことを学ぶ場」として位置づけ、基礎学力の定着、家庭学習の習慣化、学習に対するモチベーション向上を柱とする学力向上、進学実績向上に取り組む。 ② 英語教育の充実による募集力の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・「鎌倉FITS」プログラムにもとづく新たな英語教育を展開し、生徒募集力の強化を図る。 ・英語学習指導アドバイザー（金谷憲東京学芸大学名誉教授）の招聘による英語科教員の研修及び授業プログラムの開発に取り組む。 ③ 教員研修の充実による指導力向上 <ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上、学力の向上をテーマとする校内研修を年間3回実施し、全校体制で教員の意識改革、資質向上を徹底する。 ④ 生徒募集の強化に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・平成30（2018）年度からの中等部特進コース一本化を見据えた塾訪問を実施し、その趣旨を丁寧に説明するとともに、新生中等部の教育内容への理解を得る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・① 学力向上、進学実績向上の取り組みについては、「学力向上対策特別委員会」を中心に、学力向上に向けた学年、各教科などの連携が進んだことで、生徒全体に学習に対する前向きな姿勢が備わった。モチベーション高く、学習に取り組む生徒が確実に増えてきた。 ・② 英語教育の充実による募集力の強化については、英語科教員の継続的な研修会の実施と、その中での授業プログラムの開発により、平成30（2018）年度以降の取り組みの方向性が見えてきた。また、「鎌倉FITS」プログラムについては、各学年にわたり幅広いメニューを準備することができた。 ・③ 教員研修の充実による指導力向上については、中・高等部の教員対象に全体の研修会を8月、1月、3月の3回実施した。 ・④ 生徒募集の強化に向けた取り組みについては、中等部特進コース一本化について、学校内外の説明会で丁寧な説明を行った。しかし、受験生の減少に対する歯止めとはならなかった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな「教育の3本柱」、生徒の主体的な学習、学校行事への積極的なかわりなどで、学校全体の姿は変化しており、教育活動そのものは活性化している。しかし一方で、学習面に絞れば、成績上位層の生徒を必ずしも伸ばし切れていない面もみられる。中・高等部6年間を通じた学力向上の取り組みを再度検証し、実効性のある取り組みを積み重ねていく。 ・生徒募集に関しては、厳しい状況が続いているが、平成30（2018）年度入試では、入学段階で一定の学力を担保する意味で、入学者を絞り込んだ。この新生特進1期生にあたる中等部生をしっかりと育てることが、今後の募集力強化の鍵になる。

2. 教育課程

2-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自立して活躍できる確かな学力を育むための取り組みを強化する。 ・生徒の学力向上に向け、より内容の充実した授業改善に取り組む。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・国語・数学・英語の3教科の時間数を文科省標準時数より増やすことで、基礎学力を定着させるための丁寧な学習をすすめることができた。 ・生徒の学習状況を把握し、定期的に面接をするなど、学習指導をより充実させることができた。 ・すべての生徒が1週間の学習計画を立て、実際行った学習内容を記録する「週プラン」を活用したことで、自立した学習を促すことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程をより機能させるために、家庭学習の充実を図る工夫を行う。 ・学齢や学力に応じた指導方法の工夫・改善を進めるため、教職員のスキル向上に向けた研修参加の充実を図る。

2-②	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の実施に必要な、各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画や週案などが適切に作成されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに記載した内容を遵守し、学力向上に向けた取り組みを実施する。 ・各学年において、4月初旬に道徳、総合的な学習の時間、ロングホームルームの年間計画を立てる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年間学習指導計画表は、すべての教員が担当する授業それぞれすべて作成し、計画的に授業が行われた。 ・年間学習指導計画表は、学期ごとに「自己評価」及び「今後の課題と対策」を記入して報告することで、授業改善に努めた。 ・ロングホームルームは、各学年の行事や進路指導を中心に、また、総合的な学習の時間は、起業家教育の取り組みを中心に計画され、実施することができた。 ・道徳教育では、入学座禅、立居振舞講座などを年間計画に盛り込み、適宜実施することができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・年間学習指導計画どおりに進まない授業が散見するため、シラバスの見直しや学習指導のありかたについて検討する。 ・ロングホームルームでは、行事の準備だけでなく、進路研究など、進学指導の機会をより充実させる。 ・総合的な学習の時間では、生徒の主体性を第一に、起業家教育の活動をより充実発展させていく。

2-③	<ul style="list-style-type: none"> 必要な教科等の指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 国語、数学、英語の授業時間数を文部科学省の標準時間より充実させて、基礎学力の向上を図る。 管理職及びスーパーバイザー（経験豊富なベテラン教員）による授業参観や、教員同士の相互参観を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省の標準時間と比較して、国語で約1.6倍、数学で約1.4倍、英語で約1.6倍の授業時間数を設定している。 授業確保のため、①高等部一般入試以外のすべての入試日に授業を行った。②体育祭準備日の午前中は授業を行った。③2学期始業式に模擬試験を行ない、授業日を増やした。④3学期始業式に授業を行った。⑤みどり祭準備期間を短縮した。また、通常の授業のほか、夏期講習会も行った。 授業時間数が文部科学省の標準時間よりは上回っているものの、体験活動などの校外学習や学校行事も重視しているため、本校独自の計画における授業時間数の確保には至らなかった。 公開授業週間を設け、教員同士の相互参観を促進した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 今後、本校独自の計画における授業時間数の確保のため、明確に、夏期講習会を夏期集中授業と位置付ける。 健康診断日などの今まで授業を行わなかった行事日も可能な限り授業を行う。

2-④	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習について観点別学習状況の評価や評定などの基準が設定されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 学年やコースなど生徒個々の学習状況に応じ、生徒の学習を多面的に評価するために、定期試験の点数以外に、日ごろの学習の取り組み等を評価に加えて評価する。 客観性と公平性を十分に担保した上で、進学コースと特進コースでは試験問題を原則として分け、さらに目標とする平均点を60±5点と定め、問題の適正化を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 国語、社会、数学、理科、英語などの座学を中心とする科目では、定期試験の価値を高めていくために、高等部に準じた100点法に基づく評価法にした。ただし、定期試験以外に、グループワーク、実験、実習、実技試験及び、小テスト、レポート等の提出物も評価に加え、学年末には観点別評価も記録した。 保護者には各学期の10段階評価と学年の5段階評定を報告し、観点別評価に見られる「AAAB」で5が付くことがある反面、「AAAA」で4が付くことあるなどのわかりにくさを解消した。 各学期の10段階評価及び学年の5段階評定の算出は、教務部で定めた点数の区分表に当てはめて行うため、どの科目においても、同じ100点法の点数であれば、同じ評価及び評定が付くようにしている。 平成30（2018）年度のシラバス全面改訂に向けて、各教科の評価の仕方について検討を行った。 進学コースと特進コースの問題の一部に共通問題を出題し、100点法の評価を算出する際の特進コースの加点措置の基準としている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験のみの点数をみると、科目による平均点のばらつきがみられる。平均点を60±5点に近づけていくために、日ごろから生徒の理解度をよく観察し、問題作成に生かしていく。

3. 学習指導

3-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領や設置者が定める基準（学則）にのっとり、学校全体として、生徒の発達段階や学力、能力に即した指導が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中・高等部6年間を見越した各教科の学習指導計画の構築を図り、本校の実態に即した教科教育を行う。 ・従来型の授業スタイルに固執することなく、生徒主体型授業を導入するなど、より学習内容が身に付くよう生徒の指導にあたる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて過年度の学習内容を含めたり、教科書外の内容に言及したり、基礎学力の定着と学力向上を図った。 ・初等部から中等部に進学する児童を対象に算数講座を実施することで、入学してからの学習に躓くことのないように、基礎学力の定着を図った。 ・従来の板書による授業やプリント学習に加え、電子黒板の活用など、わかりやすい授業を目指した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の学習指導計画を見直し、シラバスに反映させていく。 ・平成30（2018）年度からの特進コース一本化に伴い、入学者一人ひとりの学習状況を把握するだけでなく、きめ細かな指導が求められる。そのため、外部試験を導入することで、客観的な分析を継続的に行い、教科教育へと生かしていく。

3-②	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた取組が行われ、PDCAサイクルに基づいて適切に改善されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣の確立を図る。 各種検定試験における目標級の取得を目指す。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 朝のホームルームの時間を利用して朝学習を行うことで、学習習慣の確立や基礎学力の定着を図った。 1週間の学習計画と実際に学習した内容を記録する「週プラン」を実施することで、主体的な学習姿勢を身につけるだけでなく、家庭学習の習慣化を図ることができた。 長期休暇中の提出物状況調査を行い、職員間にて情報共有を図ることで、学校全体で未提出物を減らす取り組みを行った。 中等部3年次の高等部合格発表時に、学習ガイダンスを実施することで、高等部進学者に対しての学習意識を高めるだけでなく、早い段階にて高等部に向けた学習準備に取り組ませることができた。 新入生の保護者を対象に、入学前に学習ガイダンスを行うことで、各家庭の理解や協力を得ることができた。 大学入試改革を考慮し、英語検定の受検を奨励したことで、前年度と比較して多くの生徒が受検した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 検定結果では、上位級の合格率が低いため、各教科にて対策していく。 大学入試改革を視野に入れ、英語検定については全員参加としていく。

3-③	<ul style="list-style-type: none"> ・発問、板書、指名など、各教員の指導性が各教科の授業において適切に発揮されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中心の授業から、生徒主体の授業への転換を図る。 ・知識習得中心の授業から、考える授業への転換を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・机の配列の工夫や図書室の活用など、授業内容の目的に応じて柔軟な取り組みを行い、生徒の学習への関わりを強化することができた。 ・数学の授業では、基礎力習得クラス、基礎力定着クラス、応用力育成クラスの3クラスに分け、生徒自身が主体的にクラスを選択することで、授業への参加意識を高め、生徒一人ひとりのレベルにあった授業が展開できた。 ・電子黒板やタブレットを活用することで、知識習得中心の授業からの脱却を図り、生徒一人ひとりの学習意欲の向上に努めた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身が学習するクラスを選択するため、選択によってはクラス内の人数や学力に偏りが出てしまうため、改善策を検討していく。 ・学習教材の精選と活用を心がけ、授業の組み立てについて工夫・改善していくことで、生徒の学習意欲の向上や学力の向上に努める。

3-④	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材や教育機器、コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業・講習等をはじめ、生徒の学び直しや授業の予習・復習、各種検定の対策や大学受験等の学習に、eラーニングを幅広く活用していく。 ・電子黒板やタブレット等の新しい機材を、各教員が使いこなせるようになる。 ・電子黒板やタブレット等の活用事例とその結果を教科で共有し、本校において効果的な活用を蓄積していく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・過年度の学び直しや授業の予習・復習としてWEB学習システム「デキタス」、英語検定の対策としてeラーニング教材「英検キャット」、大学受験勉強として映像講座「駿台サテネット21」を導入することができた。また、生徒の家庭学習としての利用だけでなく、授業や講習等にも幅広く活用することができた。 ・授業や放課後にeラーニングを取り組むことができるパソコンルームを設置することで、より学習効果を高めることができた。 ・電子黒板の導入により、資料の提示、動画やインターネットの活用等を反映させた授業が日常的に行われるようになってきた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器は「使用すること」そのものが目的ではなく、使用することにより「授業効果を高めること」が目的であるという視点で、もう一度、使用方法を見直す。

3-⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の計画的利用や、読書活動の推進に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・週1時間国語の時間を「読書の時間」とし、図書室で国語科教諭が授業を行う。（3年次特進コースは、「卒論の時間」） ・「読書の時間」を利用して、新1年生に図書室ガイダンスを行う。 ・「読書の時間」以外の授業にも図書室利用や教室への本の貸出などを行う。 ・授業利用以外の本、主に読み物を多く選書する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期については、1年生は図書室ガイダンス、POP作りと読書感想文、2年生は読書郵便、3年生はLibrary NAVI（図書室本紹介）作りを行った。 ・2学期については、1年生は生徒のグループ同士で本の読み聞かせと読書感想文、2年生進学コースは、グループでの読み聞かせ、特進コースは5分間スピーチでおすすめ本紹介をした。3年生はおすすめ本紹介スピーチを行った。 ・3学期については、1年生は本の紹介3分間スピーチ、2年生進学コースは文学史と作家研究、特進コースは文学史とブックカタログ作りを行った。3年生進学コースは「おすすめ本ブックカタログ」を作成した。 ・3年生特進コースは、1年間かけて卒論を書いた。 ・1学期の作品は、みどり祭で展示した。 ・中等部全クラスでの「読書の時間」の3年目であり、前年度の反省などを踏まえ、学年の様子などに対応した授業内容になった。 ・授業利用以外の読み物については、生徒・教員の希望も取り入れつつ選書できた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「読書の時間」計画は国語科が作成しているため、各学年の様子なども話し合い、引き続き柔軟な授業ができるよう準備する。 ・生徒によって、読書力に差があるため、広い範囲の本を集めていく。 ・生徒全体でライトノベルが中心の読書になっているため、文学史学習などで視野を広げ、ライトノベル以外のジャンルの本にも目を向けさせる。

3-⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科の授業において、従来のような教員の一方的な講義形式の「教わる学習」から、「自ら学ぶ学習」への転換を図る。 ・ 各教科の授業ではグループごとに課題に取り組みせたり、討論の場を設け発表させる等して、生徒が抱いた興味・関心がその後の自主的な学習につながっていくようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科の授業において、グループでの共同学習、討論、発表等をできるだけ取り入れるようにし、生徒が自ら気づくことが学びにつながるような授業を実践した。 ・ グループ討議などは慣れない生徒もいるため配慮することも必要であったが、回数を重ねるにつれ、自ら考えたことを自分の言葉で表現することができるようになっていった。 ・ 生徒の学びの姿勢が能動的になったと見受けられる部分は確かにある反面、教科書の内容を終わらせることを考えると、時間が足りない現状が見られた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの気づきによる学びという基本的な考え方のもと、1つの授業時間のなかで講義、質問、グループ討議など様々な授業形態を複合させるなどの工夫をしていく。

3-⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、体験活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の体験や運営を通して、思考力や実践力を身に付け、感動や達成感が味わえるようにする。 ・生徒の安全を第一に考え、起こり得る危険を想定し、対処できるよう準備することを整理しておく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・みどり祭や卒業生を送る会などの学内行事では、各実行委員が担当教員と連携を図り、リーダーシップをとることで、生徒主体の有志企画が年々充実してきた。自主性や積極性を発揮し、得意分野を様々な形で表現する生徒が増えた。 ・宿泊等の学外行事では、自然災害時の対応、最寄りの医療機関等を事前に保護者に示し、健康状態の調査を行うなどして安全を第一に実施することができた。また、行程は数か月前から業者と打ち合わせを重ね、時間的に余裕を持った見学や体験活動ができるよう計画した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の良さを残しながらも、より生徒主体での行事運営ができるよう、新しいことにも積極的に挑戦していく。 ・「生徒主体型学習」の取り組みのひとつとして、学年を越えて行う起業教育プログラム「Kamakura Beyond Project」については、今後所属学年も増えるため、委員会、事前研究、準備に時間をかけ、魅力あるカンパニーづくりができるよう準備を進める。 ・学外行事の実施にあたっては、今後も生徒の安全に注意を払い、様々な側面から考え、細かく計画していく。

3-⑧	<p>・生徒会活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。</p>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学級委員会では、学校行事の一部を委員会で企画・運営を行う。 ・保健体育委員会では、保健体育関係の活動の運営・補佐を行う。 ・文化委員会では、「学校新聞」の発行を行う。 ・美化委員会では、校内及び周辺の美化活動を統括する。 ・ボランティア委員会では、各種募金活動やボランティア活動を統括する。 ・体育祭実行委員会では、体育祭の企画・運営を行う。 ・みどり祭実行委員会では、みどり祭の企画・運営を行う。 ・合唱コンクール実行委員会では、合唱コンクールの企画・運営を行う。 ・卒業生を送る会実行委員会では、卒業生を送る会の企画・運営を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・常任委員会（学級委員会、保健体育委員会、文化委員会、美化委員会、ボランティア委員会）の前後期制を継続させ、活動期間を長く設定し、生徒が主体的に活動しやすいようにした。 ・学級委員会では、4月20日に新入生歓迎会を行った。また、みどり祭でも実行委員とともに企画・運営を行った。 ・保健体育委員会では、次年度に向けて球技大会の企画を練った。 ・文化委員会では、年度初めに「学校新聞」を発行した。年度末にも発行予定であったが、諸般の事情で発行を見送った。 ・美化委員会では、各教室に花を飾るなど、校内の美化に努めた。また、校内外の花壇の整備を行った。 ・ボランティア委員会では、青少年健全育成推進街頭キャンペーンへの参加、赤い羽根共同募金、緑の募金の校内募金運動への参加、ダルニー奨学金、ecoプロジェクト（使い捨てコンタクトレンズ空ケース回収運動）等、様々な活動に参加した。 ・各実行委員会では、5月15日体育祭、9月16、17日みどり祭、1月23日合唱コンクール、2月23日卒業生を送る会を実施し、成功させた。 ・委員会の活動時間について、放課後の時間は毎日、学習支援センターの補習が学年別に行われるため、放課後に全学年集まっての委員会活動を行うことが難しかった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の活動時間については、朝の時間や昼休み等を使ってのランチミーティング形式の委員会活動を継続する。短い時間で効率的な活動をしていく。

3-⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動など教育課程外の活動が、適切な管理体制の下に積極的に実施されているか。 ・部活動が、教職員全体の協力体制の下で実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止、事故発生時、事故後についての対策を事前にまとめることにより、まずは事故を未然に防ぐ工夫をし、万が一事故が発生した場合においても速やかに安全対策や応急手当ができる準備を整える。 ・安全に楽しく活動ができるように、活動時間、活動場所、活動内容を定める。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・校友会各部で作成している「校友会・事故防止のための安全対策」にもとづき、安全や事故防止に配慮して活動を行った。 ・部活動ごとに休養日を設け、学習面との両立を図りながら安全面にも十分に留意して活動を行っており、大きな事故を起こさずに活動することができた。 ・活動中は、できる限り顧問が監督できるよう、特に運動部では顧問を2名以上配置している。職員会議など職員不在の時は、活動内容を工夫し安全性の高いものに調整するか、活動自体を自粛している。 ・可能な限り活動中に顧問が監督できるようにしているが、会議や校務が重なり、顧問不在の場面も散見された。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・施設や備品の不備、破損がないか常にチェックし、二次災害防止の観点も含めて速やかに修理や交換を行う。 ・顧問不在の場合は、同じ活動場所を使用する別の校友会顧問と協力して対処・連絡が取れるように工夫しているが、さらに、特別講習、学習支援センターによる補習、委員会活動など放課後活動を整理し、担当顧問が直接安全管理できる体制を整備していく。 ・中・高等部の組織として部活動を教育活動の一環と捉え、学校全体で生徒の実践力・思考力・共生力を育むための協力体制を整えていく。

3-⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導や習熟度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の質問に対応する個別指導や各種講座を学習支援センターにて実施することで、個別指導及び補充的な学習の役割を果たす。 ・各種講習を実施することで、発展的な学習及び補充的な学習の役割を果たす。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援センターによる補習については、基礎学力の構築を図るため、各学年指定した曜日に、与えられた課題に取り組むことで、過年度の学び直しを行うことができた。また、生徒一人ひとりの学力やニーズに合わせた各種コンテンツを揃えることができた。 ・学習支援センターについては、生徒一人ひとりの苦手な部分や躓いている部分に対応するため、公文形式（自学自習形式）にて行ったが、指導員に対しての生徒の自発的な質問は少なく、学習効果や生徒満足度といった点についてはそれほど高くはなかった。 ・特進コースを対象とした特進講習、長期休暇中を利用した夏期講習を実施することができた。また、講習では問題演習を通して、基本演習から、発展演習まで幅広く問題にあたることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援センターについては、学習効果や生徒満足度を高めるため、学習支援センターを運営する提携予備校とも協議したうえで、内容を充実させていく。

3-⑪	・チームティーチング指導などにおいて、教員間で適切な役割分担がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の実験・観察においては安全を第一に、教科担当の他に実験助手がつきチームティーチングで実験・観察指導にあたる。 ・英会話の授業では各学年ともネイティブの教員に授業担当者がつき、授業の進捗や生徒の理解度に合わせて授業担当者がフォローに入るようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の実験・観察においては、各班や個々の実験状況に応じて、実験助手がサポートすることにより、生徒が方法や手順を理解しながら時間内に実験を進めることができた。 ・英会話ではチームティーチングの形態での授業を以前から行っており、授業の進め方などは英語科のなかで確立されつつあり、学習効果は上がっている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・理科実験、英会話の授業におけるチームティーチングは概ね良い成果がでていたため、今後も同様の授業形態で行っていく。

3-⑫	<ul style="list-style-type: none"> ・併設校3部の連携・協力のための取組がなされているか。 ・幼稚部との連携に関する取組がなされているか。 ・小中連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。 ・中高連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部、初等部、中・高等部においては、行事や授業等の機会を通して可能な範囲で連携しつつ教育活動を推進する。 ・幼稚部と中等部では、みどり祭での補助をはじめ、中等部2年次の家庭科の授業において連携を図る。 ・初等部と中等部では入試広報関係を強化し、初等部に中等部をより詳しく知ってもらう企画を実施する他、授業においても連携を図る。 ・中等部、高等部においてはそれぞれの発達段階を踏まえ、教科では中等部での学びが高等部につながるように配慮するとともに、校友会活動や各行事においても学年ごとの役割をもたせた上で上級学年につなげる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・併設校3部では可能な範囲で、連携をとることができた。 ・幼稚部との連携においては、中等部2年生を対象に、家庭科の保育内容を実践的に学ぶための園児とのふれあい体験を幼稚部の協力を得て実施した。 ・初等部とは、中等部入試広報担当者による教員向けの説明会及び保護者向けの説明会を実施した他、中等部1年生担当教員と初等部6年生担当教員との間で中等部1年次に進学する生徒に関する申し送りの機会を設けた。 ・中高連携では、中等部において、学習習慣の確立と基礎学力の定着を目指し、各学齢に応じた学習の取り組みを行うことにより、高等部の学習にスムーズに移行することができた。また、総合学習「Kamakura Beyond Project」では、高等部2年生から中等部2年生までを縦割りにした起業家教育の中で、高等部2年生をトップに組織を編制し、学齢（発達段階）に応じた役割分担で活動を行った。その結果、下級生は上級生の活動を間近に見ることで、組織の運営を理解し成長することができた。）
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部との連携を更に深めるため、みどり祭に来校された初等部の保護者に対して、初等部と中・高等部の接続教育についてアピールできる場を設けるように検討していく。

3-⑬	<ul style="list-style-type: none"> ・大学（鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院・鎌倉女子大学短期大学部）との連携に関する取組がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習、教職実践演習フィールドワークにおいて大学との連携を図る。 ・みどり祭において大学の学友会と中等部の校友会との連携を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習、教職実践演習フィールドワークにおいては、予定どおり連携することができた。 ・大学のみどり祭においては、マーチングバンド部とフェアリーコンサート部が演奏・演技を披露した他、中・高等部のみどり祭では、フラダンス等いくつかの学友会が演奏・演技を披露し、会場が盛り上がった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習における学生の評価については、情報を共有し報告をする過程を通して、より連携を図っていく。 ・みどり祭での交流は引き続き学友会と調整して継続していく。

4. キャリア教育（進路指導）

4-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教職員全体として組織的にキャリア教育（進路指導）に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが、自らの強みや得意なことを発見し、意識しながら学校生活を送ることができるようにする。 ・生徒が所属集団のなかで、自己理解・他者理解を通じてどのような役割を担うことができるか各種活動の中で発見し、意識することができるようになる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃活動やロングホームルームでの班別活動、2、3年生では「Kamakura Beyond Project」など校内活動において、活動後の振り返りを通じて、生徒自身が自らの強みや得意なことを発見できるように取り組んだ。その結果、低学年は自らの強みを意識することの必要性を理解し、高学年では自らの強みを生かした活動ができるようになった。特に3年生は、「Kamakura Beyond Project」の活動において、自らの強みを高等部生との活動に生かすことができた。 ・進路ガイダンスや「Kamakura Beyond Project」の活動を通じて、チームで活動することの重要性を認識する取り組みを行った。また、学校行事のなかで与えられた役割を経験し、役割適性を意識したり、活動の振り返りを通じて名称の無い役割を発見する取り組みを前年に引き続き行った。その結果、自分自身に多くの役割や得意分野があることが発見でき、高等部においてキャリアを考える際の土台を構築することができた。 ・「強みの発見・意識・活用」及び「役割の発見・意識」について、ルーブリック評価票の作成をして、内容の精査を始めることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「強みの発見・意識・活用」及び「役割の発見・意識」について、ルーブリック評価票の活用可能な方法を検討していく。

4-②	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の適切な勤労観・職業観の形成や社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度を育成するための体系的・系統的な指導が行われているか。 ・職場体験や就業体験が適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが、自らの強みや得意なことと社会課題を比較をすることで、どのような形で社会に貢献できるか考える機会を与える。 ・中学校における学びについて、各教科や分野の本質部分を明確にし、社会で必要とされる思考のフレームの基盤となっていることを、生徒が理解できるように指導する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生による職場体験が生徒の進路選択を狭めるというキャリア教育学会の報告があるため、前年度同様、職場体験や就業体験は高等部での取り組みとしている。 ・「Kamakura Beyond Project」の活動のなかで、3年生は企業やNPO法人を訪問して、これらの組織がどのように社会課題を解決し、貢献しているかを知る活動を行い、企業が単なる営利組織ではないことや、組織発足の目的が社会課題にあることが理解できた。 ・通常の授業で扱っている内容が、思考のフレームであることを生徒に意識させ、思考のフレームワークを「Kamakura Beyond Project」の活動で実際に利用したり、進路学習の際に利用した。その結果、生徒の授業に対する価値観に変化が生じてきた。 ・生徒の進路選択の幅を狭めることがないような、社会体験の場として、「Kamakura Beyond Project」の活動における企業、NPO法人訪問が活用できた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、訪問先の開拓を行い、一般企業やNPO法人だけでなく、さまざまな業種の話を知ることができるような取り組みを検討していく。 ・思考のフレームの体系的な指導方法については、検討を継続していく。

4-③	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の能力・適正等の理解のために必要な個人的資料や、進路情報が適切に収集され、活用されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 二者面談、三者面談による情報収集と、生徒への助言・指導を行う。 日常の学校生活のなかで、生徒の強み、得意なこと、適した役割を把握し、進路学習時に活用する。 模擬試験による学力情報の収集と学習スキルの把握をし、帳票返却による学習スキルなどの指導・助言を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 二者面談において、生徒とのコミュニケーションを通じて、コミュニケーションスキルや思考の癖、学びやキャリアについての興味の方向性を把握した。その結果、思考の癖や興味の方向性を考慮した進路学習のきっかけを作ることができた。 三者面談において、保護者の進路意識や進路知識を把握した。その結果、保護者間で進路意識に大きな差があることが把握できたため、進路ガイダンス等で進路選択に関する共通認識を持たせることができた。 模擬試験の帳票を返却する際や授業などで、学習に関する目標設定の方法や学習スキルの指導を行った。その結果、生徒の学習スキルに対する意識の変化があり、目標設定を行う生徒が増えた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の能力・適正等について情報収集を行うとともに、生徒に対して助言・指導を行うために、「二者面談、三者面談は必要に応じていつでも実施する」という意識を、引き続き教員、生徒、保護者に提示していく。 生徒の学習スキルを把握するため、学習の記録を残す習慣を付けさせ、学校と記録を共有しながら進路学習を進めることができるようにする。

4-④	<p>・進路相談（キャリア・カウンセリング）が適切に実施されているか。</p>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・二者面談を利用した構成的な進路学習及びキャリア学習に関する指導と、学校行事や清掃の時間を利用した非構成的なキャリア学習相談を行う。 ・キャリア・カウンセリングに関する知見やスキルについては、キャリア教育学会認定のキャリア・カウンセラー資格を取得している進路指導主任が、研修会等で収集した情報を必要に応じて教員と共有し、活用する。 <p>※中等部からは原則全員が高等部に進学するため、進学指導的な要素の進路相談は行わない。</p>
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・構成的な進路学習及びキャリア学習に関する指導では、進路学習に関する方法の指導と、キャリア学習に関する方向性と考え方の相談を行った。AIの能力の向上により、将来を不安視する保護者もいるため、生徒の強みを生かして社会に貢献するという視点でキャリアビジョンを考えるよう提案した。 ・非構成的なキャリア学習相談では、行事や清掃時の様子から生徒の強みや適性の高い役割を把握し、これらを生かしたキャリアデザインの考え方のヒントを、日常会話のなかに盛り込んでいった。この結果、二者面談で構成的な進路学習及びキャリア学習に関する話題を円滑に話し合うことができた。 ・キャリア・カウンセリング、キャリア・デザイン、就職指導に関する知見やスキルに関する情報提供は、基本的にキャリア・カウンセリングや生徒のキャリア・デザインに苦慮する教員からの相談を受ける形で行った。その結果、教員が苦慮している状況に即した情報提供を行うことができた。また、就職希望者については、ハローワークと連携することができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・カウンセリングに関する知見やスキルの情報提供を組織的に行うべく、進路指導部の教員がキャリア教育やキャリアデザインに関する知見を収集できる環境整備を行っていく。

4-⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育（進路指導）のための施設設備が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導に関する情報発信は、教室の掲示板を利用して行う。 ・キャリア学習に関する相談について進路相談室を利用して行う。 ・キャリア学習が進んでいる生徒に対しては、自習室を開放して、将来の進学に向けた準備ができるようにする。 ・3年生に対しては、大学のオープンキャンパスやオープンカレッジなどの情報も提示する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・上級学年の教室に、大学の合同説明会や体験学習を伴うオープンキャンパス情報を掲示して、体験を通じたキャリア意識の育成を促してた。その結果、高等学校や大学での学びと社会との結びつきを意識するようになった。 ・キャリア学習が進んでキャリアデザインが固まりつつある生徒には、大学受験を意識した学習を自習室で行わせ、受験を間近にした高等部生をロールモデルとして、意識できるようにした。その結果、隙間時間の活用を意識した学習ができる生徒が出てきた。 ・「Kamakura Beyond Project」の活動を通じて、各自が強みや役割を意識する機会が増えてきた。また、「Kamakura Beyond Project」に関する小さな活動を不定期に行うことで、「Kamakura Beyond Project」の活動を意識し、役割を考えるきっかけにすることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学への意識付けを更に強化できるように、中等部3年次を高等部0年次として考えた掲示などを検討していく。

5. 生徒指導

5-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教職員全体で生徒の状況についての理解を共有し、生徒指導に取り組む体制が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導計画に基づいた生徒指導を行う。 ・職員会議において各学年の生徒状況を報告し、生徒の状況について共有する。 ・生徒指導事案について、全教職員で共有できるシステムを考案する。 ・生徒指導部からの細かい生徒指導に関することを即時的に連絡し、各学年で対応がしやすいようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導ハンドブック」の一部という形で生徒指導計画を年度最初の職員会議において提示し、学年を超えた一貫した指導の指針として有用であった。 ・前年度に引き続き、職員会議において生徒状況の報告が月例で実施され、大きな問題を抱える生徒については生徒指導部からの報告の形をとり、全教員で見守ることができるようにした。 ・前年度完成した特別指導案件のデータベースを用いて、細かな指導案件も教職員内であれば、いつでも開示できる状態になった。 ・学校グループウェアの定着により、即時的に連絡や情報提供ができるようになった。 ・生徒情報を安全かつ即時的に共有できる方法を検討し、平成30（2018）年度より情報クラウドサービス（Classi）を導入することとした。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導として平成30（2018）年度から導入される情報クラウドサービスを利用するにあたり、実質的な問題点等を洗い出し、今後も安定的に利用できるように検討を重ねていく。

5-②	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導のための教育相談が計画的に行われているか。 ・スクールカウンセラー等との連携が効果的になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの生活状況や心身の状態に関する情報を共有し、生徒の変化に迅速に対応する。 ・教員、保健室、カウンセラーが相互に定期的な報告、連絡、相談を行うことで、学年単位、学校単位で生徒の心のケアを行う体制を整える。 ・生徒及び教員が教育相談室を利用しやすい雰囲気づくりを進め、学級・学年の生徒指導に活用できる環境を整える。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・月に一回、定期的にスクールカウンセラー、養護教諭、学年主任などが集まって各学年の生徒の情報を共有し、注意深く生徒の様子を見守ることができた。 ・スクールカウンセラー、養護教諭、学年主任などそれぞれの立場から生徒の情報を集約することによって、様々な角度から一人ひとりの生徒の状況を把握することができ、生徒指導の場面において適切かつ迅速な対応に役立てることができた。 ・学年内の連携や学年と保健室との連携により、カウンセラーが対応しなければならない事案に発展する前に適切な対処ができた。 ・生徒への対応や情報共有については、スーパーバイザーの協力も大きな効果を発揮した。 ・カウンセラーや保健室からの共有の必要がある情報が、担当教諭や学年主任までに留まり、他の教員が十分状況を把握できていないケースが一部見られた。 ・新入生の全員面談を行い、全生徒が一度はカウンセラーと話す機会を設けることによって、教育相談室はより利用しやすい雰囲気になってきた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセラーや保健室からの共有の必要がある情報については、授業や部活動などで気になった場面と合わせて、より多角的に情報集約ができる環境づくりを進めていく。 ・教育相談室については、今後もだれもが気軽に利用できる場所としてその役割を定着させていく。

5-③	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の問題行動の状況を共有し、適切に対処できているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「問題行動対応指針」を明確にし、問題行動に対する指導を平準化する。 ・各学年の特別指導等についての記録は、パソコンで一元的に管理する。 ・重大な問題行動が起こったとき、教職員間での速やかな情報共有を行う。 ・学年・生徒指導部・管理職での情報の伝達を円滑に行い、最善の対処を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「問題行動対応指針」を作成し、教員間での指導を平準化することができた。 ・問題行動のあった生徒が書いた「反省文」を進路指導部に提出することで、特別指導の記録がより正確になった。それらをパソコン上で一元管理することで、特別指導案件の傾向を把握することができるようになった。 ・重大な問題行動が起きた場合に、内容に応じて学年会議、分掌会議、臨時職員会議を開催し、教職員に速やかな情報共有することができた。 ・問題行動の種類によって、学年で処理できることと生徒指導部案件とに整理をして、情報過多にならないように心がけつつ、重大な案件については、即座に連携を取り合うことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動の背景に家庭内トラブルや生徒自身のメンタルなど、複雑な問題が隠れている場合がある。その場合でも「問題行動対応指針」を杓子定規に扱おうとする傾向もあり、指針の中に「情状酌量」についての言及が必要か、検討していく。

5-④	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができる生徒を育成するための指導を行っているか。 ・相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる生徒を育成するための指導を行っているか。 ・社会の一員としての意識(公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど)を身につけた生徒を育成するための指導を行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自発的に考え、行動する機会を増やし、思考力や実践力を高める。 ・グループ活動等の体験的な学びと教員からの指導を交えて、奉仕の精神や公德心などを養い、互いを認め合い、高め合う雰囲気を構築する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中でグループワーク等のアクティブラーニングを取り入れる教員が増えた。 ・体育祭では保健体育委員や各部活動が企画・運営の中心となり活躍した。また、みどり祭や卒業生を送る会などの行事においても生徒が主体的・自主的に活動する習慣を身につけ、意欲的に活動するようになった。 ・エンカウンター講座やピア・サポート講習会等を通して、コミュニケーション能力を高めることにより、豊かな人間関係を構築できる生徒を育成することができた。 ・「Kamakura Beyond Project」を通じて、学年を超えた人間関係の構築を行い、コミュニケーション能力を高めることができた。 ・朝のショートホームルーム等を利用して、担任がその時々即した課題に関する話をしたり、活動をしたりすることによって、社会の一員としての意識を高める指導を行った。 ・情報モラルに関しては、インターネット関連事業会社より講師を招き、ネットワーク環境でのコミュニケーションの方法等をグループワークを通して指導を行った。これらの活動を通じて、生徒間でも情報モラルや道徳心に関する関心が高まった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・自主性・主体性を尊重した指導を行う中で、生徒自身が失敗をする機会も増えてくる。その失敗を通じて学ぶことも視野に入れた上での教員の指導が必要となり、その想定と受け入れる度量の大きさを備えた指導について検討する。

6. 保健管理

6-①	<ul style="list-style-type: none"> ・法定の学校保健計画が作成され、適切に実施されているか。 ・生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談が適切に実施されているか。 ・日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が適切に実施されているか。
取組目標	<p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画を作成し、適切に実施する。 ・生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談を適切に実施する。 ・日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断を適切に実施する。 <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画を作成し、適切に実施する。 ・保健管理、保健指導、保健相談を適切に実施する。 ・学校管理下での災害共済給付金の手続きを適切に実施する。 ・日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断を適切に実施する。 ・学内における感染症の流行を予防する。
取組内容 と成果	<p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健室と各教科指導の連携により、学校保健計画を速やかに作成し、計画に沿った保健指導を実施することができた。 ・職員室、保健室、教育相談室を中心に、保護者とも連携を取りながら保健指導、保健相談を行うことができた。 ・クラス担任、学年主任、教科担当者と保健室が連携して日常の健康観察や心のケアを行った。 ・年2回の体位測定を始め、年初の健康診断など、適切に実施することができた。 <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科、分掌と連携して学校保健計画を作成し、健康診断・環境整備・保健指導等を円滑に行うことができた。 ・健康診断、年2回の体位測定を適切に実施できた。速やかに事後措置を行い、病気の早期発見・早期治療に繋げることができた。 ・教育相談委員会を定期開催した。個別ケースについては適宜会議に参加し、生徒の情報把握と対応に努めた。 ・毎月「ほけんだより」を発行し、生徒が自身の健康に興味・関心を持ち、その管理に役立てることができるよう内容を構成した。 ・感染症対策として、手指消毒用アルコールを各教室に設置した。トイレには嘔吐処理セットを設置し、点検と補充を行った。また、学校行事では受付に手指消毒用アルコールとマスクを用意した。 ・年間を通じて室内の換気をこまめに行うよう指導し、感染症の蔓延防止に努め

	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内でのけがについて家庭でも引き続き注意観察をしていただくために、注意事項をまとめた手紙を作成し、活用することができた。 ・学校管理下での災害について、毎月、災害共済給付金の手続きを適切に実施した。
<p>今後の課題 と改善策</p>	<p>【中等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科による保健指導は、教科の単元に応じた内容が中心となるため、各教科の横のつながりを更に深める。 ・担任は日々の業務のなかで生徒とかかわることができる時間が十分に取れていない現状にある。放課後や休み時間をもっと生徒と過ごせるような、業務体系の抜本的な改革に向けて検討する機会を作っていく。
	<p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康診断をさらに円滑に実施できるよう、会場及び待機場所について再検討する。 ・災害共済給付金制度において、高額療養費や装具費の手続きなど、家庭に対しより詳細な説明が必要となる項目について、要点がまとめられた手紙を作成し、活用する。

7. 安全管理

7-①	<ul style="list-style-type: none"> ・法定の学校安全計画が作成され、適切に実施されているか。 ・学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか。 ・校舎や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全計画を作成し、適切に実施する。 ・学校事故や不審者の侵入等、緊急事態発生時に適切な対応ができるよう、危機管理マニュアルを作成し、活用する。 ・校舎や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組みを定期的に行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全計画を作成し、それに則って教育活動を行うことができた。 ・「防災・防犯マニュアル」を作成し、全校生徒に配付し、防災教育及び防犯教育に活用した。 ・部活動ごとの活動の特性にかんがみて「各部事故防止対策」を作成し、それに則った活動を行った。大きな事故や怪我はなく、安全に活動することができた。 ・校舎の安全点検に関して各場所の責任者を設定し、定期的に点検を行った。また、週番活動のなかでも毎日点検項目を設定して、校舎の安全点検を実施している。 ・通学路の安全点検については、不審者情報等に基き適宜見回りを行った。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時の校門指導は週番活動と併せて行っている。下校時は部活動単位で分担を割り振り、各部の顧問がバス停周辺での安全指導等を行っているが、行事や部活動の活動日、活動時間の変更等によって担当者不在の場面も生じているため、状況にあった臨機応変な指示と対応ができるよう改善を図る。 ・大船駅、本郷台駅周辺の安全指導・マナー指導も実施しているが、時期、時間帯、頻度などについて、より効果的な方法を検討する。

7-②	<ul style="list-style-type: none"> ・学校防災計画等が作成され、適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・防火・防災計画を整備した上で、有事における安全確保のための基本行動を周知させる。 ・各家庭にも災害時における基本行動の徹底を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・岩瀬キャンパス全体の防災訓練を2回、防災訓練内で消火器取扱い訓練と屋内消火栓取扱い訓練を各1回行った。また、教職員対象の救命救急講座を1回実施した。 ・中・高等部独自の「防災・防犯マニュアル」を発行することにより、生徒だけではなく保護者に対しても、防災に関する心構えや基本行動の周知を行うことができた。 ・防災訓練後の備蓄食糧食事体験等を通して、生徒の災害時の食事に対する意識を高めた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面を想定し、併設校各部、総務部、管轄消防署と相談を行いながら、生徒や保護者も含めた有事に対応できるような訓練を今後も継続していく。 ・特定防火対象物のなかでも大規模建物に該当する岩瀬キャンパスにおいて、幼稚部、初等部と連携した安全行動や災害時用備蓄品の管理等を引き続き行っていく。

8. 組織運営

8-①	<ul style="list-style-type: none"> ・校長など管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、他の教職員から信頼を得ているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員との対話を重視し、意思の疎通を心がける。 ・教職員の意見や相談には真摯に応えるなど、良好な職場環境を心がける。 ・あらゆる教育活動において、管理職から適切な助言を呈する。 ・学校運営の方向性を示し、策定した教育ビジョンの実施に取り組む。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職は、全教職員との面談を実施したり、学年・分掌主任などとの話し合いをしたりすることで、意思疎通が図られ、信頼関係が得られた。 ・教育活動全般において、管理職の適切なリーダーシップにより、教職員の一体感が生まれた。 ・管理職は、多くの教職員から種々の相談を受け、またそれに真摯に応えることで、教職員との信頼関係を維持・発展させることができた。 ・学校案内にも明記された「育成する生徒像」の目標に向け、「実践力、思考力、共生力」の育成に取り組んだ。その結果、授業や行事など教育活動全般において、生徒が自ら進んで活動する場面が数多く見られるようになった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員と管理職の信頼関係は十分に築かれており、今後も継続に努める。 ・部長、次長のリーダーシップのもと、教職員一人ひとりが学校経営に携わっていることを自覚するよう、いっそうの意識改革を進めていく。 ・策定した教育ビジョンの完成には時間が必要なため、今後も継続していく。

8-②	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌や主任制が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教員が各校務分掌のいずれかに所属し、組織的な学校運営を行う。 ・各主任は、校務が確実に遂行されているかを適宜チェックする。 ・前例踏襲を見直し、より良い学校運営を目指す。 ・管理職との連携を密にし、的確さを欠くことのないように配慮する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全員が校務を担うことで、学校運営への参画意識が強化された。 ・組織的な校務運営の形態が定着し、各分掌主任は、分掌担当者への調整や助言を行った。その結果、ほぼすべての校務内容を着実に遂行することができた。 ・長年の仕事をそのまま踏襲する傾向に対して、管理職からの指示により改善を促し、その成果があらわれてきた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・従来から継続されている校務の内容や方法が見直され、教育目標に即した内容への見直しが図られてきたことを今後継続する。 ・組織としての機能は果たしているが、教職員の意識には依然として軽重がうかがえた。分掌主任による指揮を高め、仕事内容の質的向上に努める。 ・管理職への相談は非常に多く、学校運営の方向性は一致していると考えられるが、さらに個々の教員の資質向上を図り、学校の運営を確固たるものとする。

8-③	・職員会議等が学校運営において有効に機能しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議、職員会議のほか、分掌会議、学年会議を定例化する。 ・運営会議での合意を踏まえ、職員会議での指示・伝達を確実に実施する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・行事予定に学年会議、分掌会議を位置づけたため、会議の定例化が図れた。 ・運営会議、職員会議には十分な時間を確保し、教職員への意思疎通を図ることができた。 ・事前の資料配付等により会議の内容を周知することで、円滑かつ有意義な会議への転換が図れた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・会議による組織の活性化が図られているため、定例の会議以外にも、必要に応じて随時開催する。 ・会議の内容を事前に周知することが有効であったため、今後も同様に進める。 ・学年会議、職員会議等において、教職員全体で共有した情報は生徒指導等の教育活動に生かされており、今後も情報共有を続けるよう努める。

8-④	・各種文書や個人情報等の学校が保有する情報が適切に管理され、また、情報の取扱方針が教職員に周知されているか。
取組目標	・職員の守秘義務の徹底を図る。 ・個人情報に関するすべての事柄の取り扱いは、慎重かつ適正に扱う。
取組内容 と成果	・個人所有の情報機器の使用及び、デジタルデータの持ち出しを禁止することで、情報の漏洩を防いだ。成績処理を持ち帰らないことを励行した。 ・生徒の氏名、住所、成績等一切の個人情報は、教務部で一元管理されている。
今後の課題 と改善策	・今後も引き続き、個人情報管理の徹底に努める。

9. 研修（資質向上の取組）

9-①	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を全教員が行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に全校的に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・11月の学習月間に教員が授業を参観できるよう授業公開週間を1週間設け、中・高等部の教員同士だけでなく、初等部の教員にも授業を公開し、授業改善につなげる。 ・授業形態は従来の講義形式の「一斉授業」から「自ら主体的に学ぶ学習」に転換を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・1週間の授業公開週間を使い、各教員自身の担当教科のほか、担当教科以外の授業についても相互に参観し、また、初等部の教員にも公開した。 ・授業の形態を活動的かつ生徒が主体的に学ぶ共同学習、討論、発表等に転換しており、生徒自らの気づきが学びにつながるような授業を実践した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・時間割の状況により、参観が難しい授業もあるため、授業公開週間に加えて、研究授業のような形で、教員全員が参観できるような形式の授業参観の設定についても検討していく。 ・中等部の進学コースと特進コースなど、クラスにより生徒の反応も異なるため、能動的な授業の場合、授業内でのめりはりを明確につけないと、本題からそれ、グループワークに時間がかかりとられてしまう場面もあったため、留意していく。 ・生徒の学力向上のために、授業研究、教材研究、専門分野の研究、入試問題研究を通して、教員自身の授業力の向上を図っていく。

9-②	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の課題が適切に設定され、実施されているか。 ・教職員が積極的に校内研修・校外研修に参加しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善と募集力の向上をキーワードに校内研修・校外研修とも教科及び分掌ごとに幅広く研修に参加することを促していく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・どの教員も教科ごとの研修に加え、所属している分掌の研修にも積極的に参加した。 ・中・高等部の教員対象に全体の研修会を8月、1月、3月の3回実施した。テーマが進路指導、生徒指導、学習支援についてと多岐にわたる内容であり、大変有意義な研修会であった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・各研修に参加する場合、週休日の関係で担任の代わりに帰りのホームルームに行くため、出張に出られない状況がある。学年や分掌で交代するなど、多くの教員が研修に参加できる環境を整えていく。

9-③	<ul style="list-style-type: none"> ・校長等の管理職が定期的に授業観察を行い、教員に対して適切な指導・助言をしているか。 ・教員の指導の状況を的確に把握するとともに、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観（学校開放デー）、授業公開週間だけでなく、平素の授業においても部長、次長、スーパーバイザー、教科主任が授業観察を行い適切な指導にあたる。 ・授業観察で把握できた教員の不適切な指導については、スーパーバイザー、教科主任が担当教員に助言する他、改善がなされるまで次長、部長が指導にあたる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察はスーパーバイザーを中心に行われ、担当教員に、指導上の留意点・改善点が詳細に伝えられた。その後改善されているか否かの確認を部長、次長が行った。 ・指導が不適切と指摘された教員の授業内容や方法はかなり改善され、授業アンケートが実施されたことと合わせて、授業力アップに効果的に働いている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開週間だけでなく、定期的に授業観察をするため、スーパーバイザーの担当授業時間数をある程度調整していく。 ・指導に問題が見受けられた教員に対しては、改善が行われた内容を随時確認するとともに、教科内での研修や外部研修も活用して、質の高い授業を生徒に提供できるようにする。 ・指導が不適切な教員の事例については、部長、次長、教科主任を中心として引き続き助言をし、教科内の教員間でも共有する。

10. 保護者・地域社会等との連携

10-①	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が学校運営に参画し、協力できる体制を整えているか。 ・教育ボランティアを集めるシステムができているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が行事等を通じて、学校運営に協力できる体制を整える。 ・必要に応じて外部の教育ボランティアや専門家の協力を得られる体制作りを検討し、その基礎を構築する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・みどり祭の保護者企画は、前年度に引き続き保護者の自主的な活動が見られ、大変有意義なものとなった。 ・総合的な学習の時間の「Kamakura Beyond Project」では、外部のボランティアや専門家の講話、指導を導入し、企画の体制作りの検討やみどり祭への事前準備に向けて進展が見られた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・みどり祭の保護者企画は、今後も継続的に行うことで、保護者との連携を密にし、学校と保護者の協力体制を作る場として今後も有効に活用する。 ・今後も外部のボランティアを活用し、次の発展につなげていくために、更なる検討や準備を行っていく。

10-②	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開を定期的に行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観（学校開放デー）や体育祭等の行事を通して、学校公開を定期的に行う。 ・保護者講座や保護者対象の立居振舞講座等を通して学校と保護者との連携を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観（学校開放デー）では、多くの保護者に学校を公開するために、曜日の設定や授業を自由に参観できるように工夫し実施した。 ・体育祭では、保護者参加種目を設定することで、共に活動する場となった。 ・保護者講座も、保護者と教員が知識を広げつつ、楽しみながら実施できるよう内容を工夫し、円滑な交流の場として機能した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観（学校開放デー）は学年が上がっても、参加人数が減少しないように、今後も実際の生徒の学習の様子を見てもらう体制作りを行っていく。 ・保護者講座においては、よりニーズの高いものに特化し活性化していく。 ・次年度も学校開放デーを設けるなど広く公開する体制を継続していく。

10-③	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。 ・教育相談体制を整備し、生徒・保護者から寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者のニーズを聞き取り、現状把握を行い、内容を精査し反映させる。 ・学校生活における生徒の様子や現状を、教員と保護者が共有できる場としての保護者会や保護者懇談会を実施する。 ・三者面談を通じて、直接担任と生徒、保護者が話し合うことで、生徒の抱える問題や保護者の不安に迅速に対応する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎に授業に関するアンケートを実施し、アンケート結果を踏まえ、授業の見直しや、スーパーバイザーと協力した授業改善に取り組むことができた。 ・学校生活に関するアンケートを実施したことで、表面化されていないクラス内の傾向を知ることができ、学級担任のクラス運営に役立てることができた。また、いじめの原因となり得る事象の発見や、学級の生徒の思いが気づきやすくなった。 ・保護者懇談会を実施し、管理職が直接保護者と意見交換をする機会を多く設けた。 ・保護者会の効果としては、複数の保護者が一堂に会し、直接話をすることができ、家庭間の情報共有がよりスムーズにできている。必要に応じて、学年保護者会を実施することで学年間的话题を共有することができた。 ・三者面談は、限られた時間内であるため、すべての相談ができるわけではないが、必要に応じ、別の日に担任以外にも学年主任、スーパーバイザー、カウンセラーを交えて実施するケースもあった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関するアンケートの質問内容を精査し、より学力向上やアクティブラーニングにつながる生徒の意見を聞き取り、これまで以上に生徒が主体となり、双方向性と活気のある授業展開の構築を行っていく。 ・学校生活に関するアンケートについては、アンケート項目が多いことや、生徒のアンケートに対する慣れによって、回答方法が雑になり、正しい実態評価につながるのかといった不安要素もあるため、アンケートの質問内容を簡潔化し、効果的な質問へ絞っていく。 ・保護者懇談会については、学年があがると懇談会参加者が固定化される傾向があり、より多くの保護者の意見を把握する方法を検討していく。 ・三者面談においては、面談時間が限られているため、必要に応じて、問題を多く抱えている生徒や家庭においては他日面談日を設けるなどし、柔軟に対応していく。なお、面談前には学年会議を行い、情報共有に努めているが、更なる取り組みを行っていく。

10-④	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便りや学級便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と学校の良い信頼関係を構築していくために、定期的に情報の伝達・公開を行う。 ・情報提供により、保護者が学校に関心を持ち、学校理解の一つになるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学園全体の広報誌「学園だより」、機関誌「緑苑」、進路指導部からの「キャリア・進学だより」、生徒指導部からの「生徒指導部だより」、保健室からの「保健だより」、相談室からの「相談室だより」等を通じて、行事予定、生徒の学校での活動の様子、進学、キャリアの情報、生徒指導上で留意すべき事柄等を定期的に様々な形で提供した。 ・平成29（2017）年度は「学年だより」を各学年が毎月定期的に発行し、生徒の日常生活の様子、学年の担当からのメッセージ、翌月の行事予定等を掲載した。各学年がその時々伝えたい情報を提供し、特徴がよく出ていた。情報共有のツールとして活用し、大変有意義なものとなった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「学年だより」は、今後も保護者との信頼関係を築く基礎となるよう、掲載する内容については、保護者が知りたいと考えている情報を選んでいく。また、生徒も興味を持ち目を通せるものを提供していく。 ・定期的に発行できるように、全学年で発行日の統一を図る。

10-⑤	・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間や校外学習の時間を利用し、鎌倉の自然や文化財に触れる機会を積極的に増やし活動する。 ・「赤い羽根」等のボランティア活動を通じて地域社会との連携を深める。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生は、校外学習を通じて鎌倉の神社、仏閣について事前学習をした上で、グループ活動を実施した。 ・3年生は、校外学習で訪れた小田原の「生命の星・地球博物館」において、地球や動植物の展示を見学した。 ・3年生は、平成28（2016）年度からの起業活動の一環として行われている「Kamakura Beyond Project」の取り組みとして、鎌倉市内の企業訪問を行い、企業設立のためのノウハウや事業内容などの話を伺った。 ・赤い羽根募金等に意欲的に協力し、各クラスの委員を中心に積極的に活動した。 ・平成29年（2017）年度は3年生の有志メンバーも街頭募金に参加した。 ・地域社会との連携の一つとして、児童文化部によるかさまの杜保育園への訪問において、園児と触れ合う時間を設けた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会との連携をよりいっそう強めるために、企業や外部の専門家の導入について、検討していく。また、生徒の自主的な活動を引き出すために、時間を確保した上での実施計画を作成していく。 ・募金の意義や必要性を丁寧に説明し、より自主的な活動につなげていく。

10-⑥	・教育実習生の受け入れ体制が十分に整っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習期間や取組内容を確認させた上で、事前に十分に学校として指導を行い、自覚をもたせる。 ・教育実習生が生徒の前で、教員としての自覚をもち、自発的に行動できるよう担当教諭を中心に指導する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前に事前のガイダンスを行い、学生の自覚と意思を確認して取り組ませることができた。 ・実習開始直後には、部長から実習を行う際の心構えを説明し、実習に臨ませた。 ・教科指導と学級指導だけでなく、生徒への接し方や実習日誌の記入についても、それぞれの担当教員が適切に指導しているため、実習期間で学生に大きな成長が見られた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・事前のガイダンスで、実習の重要さと、それを乗り越えるだけの努力が必要であることを、十分に学生に説明していく。 ・実習生の受け入れ人数について、前年度と比べ大幅な減少が見られるが、担当教員1名につき実習生1名の体制がきめ細かい指導をするための理想であるため、業務効率化の観点からも適切であると考えている。

11. 入試・広報活動（情報提供）

11-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動についての説明会を実施したり、学校案内を配付したり、ホームページを活用するなど、学校に関する様々な情報が、多様な媒体を用いて分かり易く、かつ適切な分量で提供されているか。 ・ホームページに校長名、学校の所在地、連絡先、学級数、生徒数、教育課程などの基本的な情報が提供され、情報が定期的に更新されているか。 ・生徒等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・告知媒体を増やし、情報の受信環境に影響されることなく学校情報を伝える。 ・発信するその時期の最新の学校情報を逐次受験生と保護者に発信できるようにする。 ・明確でわかりやすい情報提供を心がける。 ・受験生、保護者、塾関係者に直接学校の魅力を伝える機会を増やす。 ・重要な情報を繰り返し伝える工夫を行う。 ・生徒等の個人情報の保護に十分配慮する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやダイレクトメール、校外説明会や塾訪問での告知活動など、多様な媒体を通して入試イベントの内容を伝えることで、より多くの人に学校の情報を伝えることができた。 ・定期的に説明会を実施する中で、本校の最新の教育内容を紹介するとともに、学校行事や日々の教育活動の様子をホームページの「ニュース&トピックス」の欄で随時、発信した。こうした工夫によって最新の学校情報を素早く外部に伝えることができた。 ・最新の説明会の情報は、ホームページのトップ画面でバナーを表示して告知をし、近日中に行われる説明会がいつなかわかりやすく伝えることができた。また平成30（2018）年度から始まる新しい教育内容については別途リーフレットを作成することで、改革の概要を明確に発信することができた。 ・説明会の回数を増やすことで、より多くの受験生や保護者に、より頻繁に本校の紹介をすることができた。また塾訪問の機会を増やし、ホームページやダイレクトメールでは伝えきれない本校教育内容の魅力を直接関係者に伝えることができた。 ・ホームページへ掲載する際、または学校案内等の印刷物を発行する際には、生徒の個人情報保護を念頭に、事前に生徒保護者に「承諾書」を配付し、理解・承認を得た後に、円滑に進められた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのトピックや配布する資料に変化をつけることで、見る側を飽きさせない告知活動を行うようにしていく。 ・募集要項など入試にかかわる情報については、受験生が志望校を決定する早い時期に配布を始められるよう、作成計画を立案する。 ・新しい情報を発信するだけでなく、過去の説明会の発表内容や前年度の入試結果などもホームページなどで閲覧できるように広告媒体の制作を進める。 ・塾訪問については、地区ごとに分担を決めて定期的に複数回訪問できるような体制を作り上げていく。 ・ホームページや学校案内等に掲載された生徒については、実際の広告物をすぐ

	に該当の生徒保護者に配布できるように配慮する。
--	-------------------------

11-②	<ul style="list-style-type: none"> ・中等部の募集力向上に向けた改革における事務支援が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中等部入試・広報担当教員の業務補佐と支援の充実を図る。 ・募集人員充足に向け、①学校案内制作、②ホームページ・ブログ等制作、③学校説明会運営、④広報媒体等への交渉、⑤他校入試・広報関連の情報収集、⑥学習塾訪問頻度向上、⑦校外進学フェア運営等の支援活動等を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内制作の支援を行った。学校案内制作会社へのアドバイスと、中等部入試・広報担当教員とのパイプ役として制作支援を行った。同時に制作費用の削減に向けた折衝を行い、パンフレットとしての費用対効果の向上を図った。平成30（2018）年度の学校案内制作会社の見直しを行い、制作業者の切り替えを支援した。 ・ホームページの「ニュース&トピックス」への記事掲載支援を行った。中等部における教育活動、生徒の学園生活等を閲覧者に対してタイムリーに、更に分かりやすく提供した。また、学校説明会・校外進学フェア等の運営支援を実施した。 ・広報ツールの制作支援を行った。学力向上プランの冊子、チラシ、交通広告等の制作支援を実施した。また、その制作費、及び媒体使用料等の削減に向けた交渉を積極的に行った。これにより広報予算の有効活用が図られ、告知頻度の向上につながった。 ・塾訪問の頻度の向上を図った。中等部長、並びに担当教員と連動した学習塾に対する訪問頻度を向上した。告知活動の充実を図り、今後の募集力増強に寄与した。 ・接続教育推進プロジェクト会議を開催した。幼稚部から高等部までの現状と課題を共有し、各部の戦略的な募集力向上を図った。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・中等部の募集定員の充足に向け、入試・広報担当教員の支援活動の充実を図る。 ・計画的な募集活動の補佐に加え、教育活動を効果的に伝える学校説明会の運営の支援等を行い、志願者数の増加を図る。 ・学習塾に対する告知の増強を図る。塾講師へ中等部の優位性を強く発信する。 ・初等部・中等部間の進学接続支援の増強を図る。

12. 教育環境整備

12-①	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学習内容・学習形態などに対応した施設・設備の整備が行われ、活用等が適切に図られているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 音楽室、美術・工芸室、調理実習室、家庭科室（被服）、物理・地学室、化学室、生物室など各特別教室を有効活用する。 各教室に設置された電子黒板を有効活用する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 音楽室、美術・工芸室は、音楽及び美術の授業で必ず使用されていた。特に、2つある音楽室は、合唱の練習などの際には、パート別に分かれて2カ所とも使用するなど有効に活用された。 技術・家庭科では、実習を多く行っているため、調理実習室、家庭科室（被服）とも頻繁に活用された。 複数ある理科室も実験の内容に応じて多く活用された。 教室の電子黒板は、主要教科の授業においてパワーポイントで授業を進める科目が多いため、多用されていた。また、動画や画像、ホームページなどの視聴覚教材を使用する際に多く活用された。さらに、パワーポイントを用いた生徒の発表の際にも有効であった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板で使用したコンテンツを、教科内だけでなく、学校全体で共有することで、より充実したものにしていく。 学年を越えた学習活動の際、大教室や演習室での電子黒板などの視聴覚教材の利用法を検討していく。

12-②	・施設・設備の安全・維持管理のための点検及び整備が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の安全を確保する ・施設・設備の機能を維持する。 ・より快適な環境で生徒が学校生活を送れるよう環境整備を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検により施設・設備の状況を把握し、不具合に対処した。 ・平成26（2014）年度に本館に多目的トイレの設置工事を行ったが、平成29（2017）年度3月には東館の2階に多目的トイレの設置工事を行った。 ・平成26（2014）年度に本館においてスロープ設置工事を行ったが、平成29（2017）年度3月には本館、東館、松本講堂及び北館の各棟をつなぐべくスロープの設置工事を行った。 ・第2体育館において、耐震対策として天井照明器具の落下防止対策工事を行った。 ・職員の日常作業の他、清掃・樹木管理、プールの保守点検等業者への委託による環境整備・安全確保等も行っている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検による施設設備の安全管理を継続する。 ・委託業務の内容等が実状に合わせたものになるよう見直しを図る。 ・創立80周年記念事業として岩瀬キャンパス再整備計画が構想されているが、その内容を踏まえて設備整備計画を見直し、実行する。

12-③	<ul style="list-style-type: none"> ・教材・教具・図書の整備や学校教育の情報化が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教育活動の目的に適う場所や教材・教具・図書などの教育環境を整備する。 ・パソコンや情報機器のマルチメディア性を生かし、教育活動の情報化を推進する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学習室、マルチメディアラウンジの電子黒板や、情報処理演習室、マルチメディアラウンジのパソコンも有効に活用されている。 ・図書室では蔵書数や映像教材の更なる充実を図っている。 ・各教室に設置された電子黒板は、ほぼ全教科において活用されるようになった。 ・自習室については、進路指導部と高等部3年学年団が担当し活用している。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の「Kamakura Beyond Project」などの活動を考慮し、現在使用している情報処理演習室、マルチメディアラウンジ、学習支援センターE教室の他にも、パソコンの台数・場所共に計画的に増やしていくことを検討している。 ・情報処理演習室と学習支援センターE教室は、通常は施錠されているため、生徒が自由に使用できるマルチメディアラウンジのパソコンについては、常に全てのパソコンが稼働できるように、整備を検討している。 ・教育活動でのパソコンや情報機器を利用した情報化は進んでいるが、利用方法については更なる工夫や開発を検討する。また、それらを共有するためのシステムづくりを進めていく。

13. 事務支援体制

13-①	・中等部の教育活動における支援が適切に行われているか。
取組目標	・日常業務における事務支援体制全体の強化を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口での来校者や電話での各種問合せについては、「窓口は学園の顔」という言葉を常に意識し、適切かつ丁寧な対応に努めた。 ・業者支払いの勘定伝票や預り金についての帳票を初等・中等教育支援室で作成することで、事務処理の合理化・厳格化に貢献した。校友会費処理についても、経理部の指導のもと、改善を進めた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も外部との対応に関して、引き続き適切かつ丁寧な対応を心掛ける。 ・預り金の厳格化については、経理部や総務部、各部と連携し、引き続き対応を図っていく。 ・昼食時におけるカフェテリアでの食事の提供について、総務部や担当各部と相談し、平成30（2018）年度より取扱業者の見直しを行う予定である。

14. 自己点検・評価

14-①	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価が年に1回以上定期的実施されているか。 全教職員が評価に関与しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 年度末に当該年度に実施した教育内容全般について振り返り、次年度に生かせるように自己点検・評価を実施する。 自己点検・評価報告書の作成にあたっては、分掌主任を中心に中・高等部の全教職員で行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 各点検項目にしたがって分掌主任を中心に、実施した教育内容について細部にわたり取組内容と成果、達成状況を点検することで、次年度の改善につなげることができた。 報告書の作成においては、部長・次長と分掌主任を中心に教科主任や学年主任から指示する形で、分掌主任を中心に全教職員が振り返りをし、次年度の工夫や改善に生かすことができるようにした。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 担当者には年度末に執筆を依頼し、次年度の初めまでを期限としているが、成績処理と残務整理に加え、次年度への準備も入る時期であるため、点検項目などは年度の始めに決定し、担当者が実施済のものから点検・執筆していく。

14-②	・自己評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価の結果を受けて、改善すべき点は次年度に生かす。 ・取組内容に関して成果が表れているものについては、さらに工夫を凝らしながら次年度以降も継続して実施する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・成果に結びついていない、又は結果が表れていない教育内容については十分な検討を重ねた上で、代替策を講じることができた。 ・教育内容について細部にわたりその内容の一つひとつを点検することで、明らかに次年度の教育活動に生かすことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教育内容のなかにはすぐには結果には表れないものがあり、長い期間を経て成果に結びつくものもあるため、引き続き次年度も実施すべき教育内容か否かは十分吟味を重ねていく。

第2章 高等部 自己点検・評価

1. 教育目標

1-①	<ul style="list-style-type: none"> ・設置者の示す明確な教育方針（建学の精神）等に基づいて教育目標を設定し、教育活動その他の学校運営を行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29（2017）年度を始めるに当たり、これまでの伝統的な教育内容に加えて、時代の変化に対応した先進的な活動をバランス良く配置するために「教育の3本柱」を設定する。 ・最初の柱は、「建学の精神にもとづく豊かな人間性の育成」とする。 ・2番目の柱は、「自立して活躍できる確かな学力の育成」とする。 ・3番目の柱は、「国際社会で活躍できる語学力・表現力の育成」とする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の柱である「建学の精神にもとづく豊かな人間性の育成」では、コミュニケーション、伝統、本物に触れるというキーワードのもとで、自らを律する道徳観や女性らしい所作、本物の美しさに感動する心の育成などを目標とした。 ・新生を対象に新しく導入した、外部講師による「コミュニケーション講座」「エンカウンター講座」では、新しい集団の中で良好な人間関係を築くということと併せ、感謝する心や他者への配慮など、建学の精神が目指すものとの共通項が多く、生徒にとっては有意義な機会となった。 ・2番目の柱である「自立して活躍できる確かな学力の育成」では、苦手教科を克服し、自立できる知恵と勇気、情操を身に付けるため、基礎学力の定着、家庭学習の習慣化などに重点的に取り組むこととした。 ・基礎学力の定着に向けては、日々の授業はもとより朝、帰りのショートホームルームの活用、放課後の学習支援センターを運営する提携予備校との連携強化などを通して、取り組みを深めることができた。 ・家庭学習の定着については、朝のショートホームルームを活用し、1週間の学習を振り返る「週プラン」の取り組みを始めたことで、生徒の意識も高まってきた。 ・3番目の柱の「国際社会で活躍できる語学力・表現力の育成」では、平成28（2016）年度から一部実施している新しい英語教育プログラム「鎌倉FITS」を全面的に導入し、英語教育の充実を目指すこととした。 ・英語教育に関しては、「鎌倉FITS」の多岐にわたるプログラムを導入した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに導入したプログラムも多く、個別の内容に関してはしっかりと検証し、改善していく。 ・英語教育プログラム「鎌倉FITS」に関しては、各取り組みの内容を精査し、効果的なプログラムを見極めてを全体をスリム化していく。

1-②	<p>・学校の状況を踏まえ重点化された中・短期の目標が定められているか。</p>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に部長が全職員に示す「取組方針」にもとづき、短期目標を設定する。 ① 学力向上、進学実績向上の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・高等部を「進路目標を実現する場」として位置づけ、基礎学力の定着、家庭学習の習慣化、学習に対するモチベーション向上を柱とする学力向上、進学実績向上に取り組む。 ② 英語教育の充実による募集力の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・「鎌倉FITS」プログラムにもとづく新たな英語教育を展開し、生徒募集力の強化を図る。 ③ 教員研修の充実による指導力向上 <ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上、学力の向上をテーマとする校内研修を年間3回実施し、全校体制で教員の意識改革、資質向上を徹底する。 ④ 生徒募集の強化に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・併願者の歩留まり率などを分析し、さらなる入学者増に向けた取り組みを強化する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・① 学力向上、進学実績向上の取り組みについては、「学力向上対策特別委員会」を中心に、学力向上に向けた学年、各教科などの連携が進んだことで、生徒全体に学習に対する前向きな姿勢が備わった。モチベーション高く、学習に取り組む生徒が確実に増えてきた。 ・② 英語教育の充実による募集力の強化については、英語科教員の継続的な研修会の実施と、その中での授業プログラムの開発により、平成30（2018）年度以降の取り組みの方向性が見えてきた。また、「鎌倉FITS」プログラムについては、各学年にわたり幅広いメニューを準備することができた。 ・③ 教員研修の充実による指導力向上については、中・高等部の教員対象に全体の研修会を8月、1月、3月の3回実施した。 ・④ 生徒募集の強化に向けた取り組みについては、受験生の減少に対する歯止めとはなっていない。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな「教育の3本柱」、生徒の主体的な学習、学校行事への積極的なかかわりなどで、学校全体の姿は変化しており、教育活動そのものは活性化している。しかし一方で、学習面に絞れば、成績上位層の生徒を必ずしも伸ばし切れていない面もみられる。高等部3年間を通じた学力向上の取り組みを再度検証し、実効性のある取り組みを積み重ねていく。 ・生徒募集に関しては、厳しい状況が続いているため、今後より成績上位層の併願者層の生徒の取り込みのための戦略を検討していく。

2. 教育課程

2-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自立して活躍できる確かな学力を育むための取り組みを強化する。 ・生徒の学力向上に向け、より内容の充実した授業改善に取り組む。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習状況を把握し、定期的に面接をするなど、学習指導をより充実させることができた。 ・すべての生徒が1週間の学習計画を立て、実際行った学習内容を記録する「週プラン」を活用したことで、自立した学習を促すことができた。 ・自立して活躍できる確かな学力を育むため、教員各自のスキル向上に向けて、外部研修への参加が増えたものの、その取り組み状況には個人差が見られた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力が十分に伸ばせていない現状を打開するため、いっそうの授業改善に取り組む。 ・教員各自のスキル向上に向けて、校内研修も含め研修参加の充実を図る。

2-②	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の実施に必要な、各教科・総合的な学習の時間・特別活動の年間指導計画や週案などが適切に作成されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに記載した内容を遵守し、学力向上に向けた取り組みを実施する。 ・各学年において、4月初旬に総合的な学習の時間、ロングホームルームの年間計画を立てる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年間学習指導計画表は、すべての教員が担当する授業それぞれすべて作成し、計画的に授業が行われた。 ・年間学習指導計画表は、学期ごとに「自己評価」及び「今後の課題と対策」を記入して報告することで、授業改善に努めた。 ・ロングホームルームは、各学年の行事や進路指導を中心に、また、総合的な学習の時間は、3年次を除き起業家教育の取り組みを中心に計画され、実施することができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・年間学習指導計画どおりに進まない授業が散見するため、シラバスの見直しや学習指導のありかたについて検討する。 ・ロングホームルームでは、行事の準備だけでなく、進路研究など、進学指導の機会をより充実させる。 ・総合的な学習の時間では、生徒の主体性を第一に、起業家教育の活動をより充実発展させていく。

2-③	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な教科等の指導体制が整備され、授業時数の配当が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主に私立大学受験を目標とし、受験科目を重点的に学べるように、3年次の2学期には必要な内容を終え、さらに問題演習の時間も確保する。 ・管理職及びスーパーバイザー（経験豊富なベテラン教員）による授業参観や、教員同士の相互参観を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次より、文系、理系のコース選択を行うことで、歴史や理科において、受験に必要な選択科目を2年間継続して学ぶことができた。 ・学校設置科目の特講授業を設置して、問題演習の時間を増やした。 ・鎌倉女子大学への内部進学者の実力を上げるため、2・3年次で鎌倉女子大学進学希望者のクラスを設け、学級活動として基礎学力の向上を図った。 ・鎌倉女子大学進学希望者には、高大連携講座や教養講座を設けた。教養講座については、進路変更に対応するためカリキュラム上には置かないが、時間割に組み込んだ講座とした。 ・授業確保のため、①高等部一般入試以外のすべての入試日に授業を行った。②体育祭準備日の午前中は授業を行った。③2学期始業式に模擬試験を行ない、授業日を増やした。④3学期始業式に授業を行った。⑤みどり祭準備期間を短縮した。また、通常の授業のほか、夏期講習会、冬期講習会も行った。 ・各科目において、単位数を増加して丁寧な説明を行う時間及び問題演習の時間を十分取れるように計画しているが、体験活動などの校外学習や学校行事も重視しているため、授業時間数の十分な確保には至らなかった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、授業時間数の確保のため、明確に、夏期講習会を夏期集中授業と位置付ける。 ・健康診断日などの今まで授業を行わなかった行事日も可能な限り授業を行う。

2-④	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習について観点別学習状況の評価や評定などの基準が設定されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 学年やクラスなど生徒個々の学習状況に応じ、生徒の学習を多面的に評価するために、定期試験の点数以外に、日ごろの学習の取り組み等を評価に加えて評価する。 客観性と公平性を十分に担保した上で、進学クラスと特進クラスでは試験問題を原則として分け、さらに目標とする平均点を60±5点と定め、問題の適正化を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験以外に、グループワーク、実験、実習、実技試験及び、小テスト、レポート等の提出物も評価に加えていた。 各学期の10段階評価及び学年の5段階評定の算出は、教務部で定めた点数の区分表に当てはめて行うため、どの科目においても、同じ100点法の点数であれば、同じ評価や評定が付くようにしている。 平成30（2018）年度のシラバス全面改訂に向けて、各教科の評価の仕方について検討を行った。 進学クラスと特進クラスの問題の一部に共通問題を出題し、100点法の評価を算出する際の特進クラスの加点措置の基準としている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験のみの点数をみると、科目による平均点のばらつきがみられる。平均点を60±5点に近づけていくために、日ごろから生徒の理解度をよく観察し、問題作成に生かしていく。 大学受験に備えて、難易度の高い問題も出題しなければならないが、生徒の学力測定に有意な出題になるよう、難易度のバランスに気を付ける。

3. 学習指導

3-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領や設置者が定める基準（学則）にのっとり、学校全体として、生徒の発達段階や学力、能力に即した指導が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部3年間を見越した各教科の学習指導計画の構築を図り、本校の実態に即した教科教育を行う。 ・従来型の授業スタイルに固執することなく、生徒主体型授業を導入するなど、より学習内容が身に付くよう生徒の指導にあたる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて過年度の学習内容を含めたり、教科書外の内容に言及したりし、基礎学力の定着と学力向上を図った。 ・従来の板書による授業やプリント学習に加え、電子黒板の活用など、わかりやすい授業を目指した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の学習指導計画を見直し、シラバスに反映させていく。 ・中学校時代の学習内容が十分に身につけていない生徒に対しては、学習支援センターの活用以外にも、過去の復習を取り入れた授業や補習など、基礎基本を身につける機会を引き続き作っていく。 ・従来型の講義形式に比べて、生徒主体型による授業は生徒の授業への参加意識が高く、学んだ内容の認識度が良いため、より多くの授業で取り入れていく。 ・これまでも生徒の興味関心をかきたてる授業を目指してきたが、3年後を見据えて幅広い知識が修得できる授業に努める。

3-②	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた取組が行われ、PDCAサイクルに基づいて適切に改善されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣の確立を図る。 大学受験に備えて、学力の向上を図る。 各種検定試験における目標級の取得を目指す。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 朝のホームルームの時間を利用して朝学習を行うことで、学習習慣の確立や基礎学力の定着を図った。 1週間の学習計画と実際に学習した内容を記録する「週プラン」を実施することで、主体的な学習姿勢を身につけるだけでなく、家庭学習の習慣化を図ることができた。 長期休暇中の提出物状況調査を行い、職員間にて情報共有を図ることで、学校全体で未提出物を減らす取り組みを行った。 模擬試験のほか、校内実力試験を実施することで、現在の実力を知るだけでなく、学習方法の改善や到達目標の設定など、生徒一人ひとりの学力の向上に役立たせることができた。 大学入試改革を考慮し、英語検定の受検を奨励したことで、前年度と比較して多くの生徒が受検した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 大学受験に向けた学習方法や内容を生徒や保護者が理解し、生徒が自ら学力向上に向けた取り組みができるよう助言する。 検定結果では、上位級の合格率が低いため、各教科にて対策していく。 大学入試改革を視野に入れ、英語検定については全員参加としていく。

3-③	<ul style="list-style-type: none"> ・発問、板書、指名など、各教員の指導性が各教科の授業において適切に発揮されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中心の授業から、生徒主体の授業への転換を図る。 ・知識習得中心の授業から、考える授業への転換を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・机の配列の工夫や図書室の活用など、授業内容の目的に応じて柔軟な取り組みを行い、生徒の学習への関わりを強化することができた。 ・電子黒板やタブレットを活用することで、知識習得中心の授業からの脱却を図り、生徒一人ひとりの学習意欲の向上に努めた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業目標や進度を踏まえ、限られた時間のなかでの生徒主体型授業の工夫を継続して行っていく。 ・学習教材の精選と活用を心がけ、授業の組み立てについて工夫・改善していくことで、生徒の学習意欲の向上や学力の向上に努める。

3-④	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材や教育機器、コンピュータや情報通信ネットワークを効果的に活用した授業が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業・講習等をはじめ、生徒の学び直しや授業の予習・復習、各種検定の対策や大学受験等の学習に、eラーニングを幅広く活用していく。 ・電子黒板やタブレット等の新しい機材を、各教員が使いこなせるようになる。 ・電子黒板やタブレット等の活用事例とその結果を教科で共有し、本校において効果的な活用を蓄積していく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・過年度の学び直しや授業の予習・復習としてWEB学習システム「デキタス」、英語検定の対策としてeラーニング教材「英検キャット」、大学受験勉強として映像講座「駿台サテネット21」を導入することができた。また、生徒の家庭学習としての利用だけでなく、授業や講習等にも幅広く活用することができた。 ・授業や放課後にeラーニングを取り組むことができるパソコンルームを設置することで、より学習効果を高めることができた。 ・電子黒板の導入により、資料の提示、動画やインターネットの活用等を反映させた授業が日常的に行われるようになってきた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器は「使用すること」そのものが目的ではなく、使用することにより「授業効果を高めること」が目的であるという視点で、もう一度、使用方法を見直す。

3-⑤	・学校図書館の計画的利用や、読書活動の推進に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部からの入学生に図書室ガイダンスを行う。 ・授業担当教諭が授業中に生徒に見せる資料を貸し出す。また、総合的な学習の時間に利用する資料をブックトラックで学年に貸し出す。 ・英語の多読授業に対応し、洋書の購入、大量貸出を行う。 ・読書活動の推進としては、新着本案内の掲示をし、図書室利用を促す。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29（2017）年度は時間が得られず、1年2組のみに図書室ガイダンスを行った。 ・家庭科、理科、美術、総合的な学習の時間等の授業での利用に対応した。英語コミュニケーションの多読授業用に洋書のブックトラックを作り、貸出した。総合的な学習の時間においても、学年へブックトラックでの大量貸出をした。 ・新着本案内の掲示については、年3回本を購入するたびに、生徒の希望図書や話題本の表紙をコピーし、興味を引くようなものを作った。 ・朝の読書や受験対策に活用できるよう、新着の新書案内の教室掲示を毎月作成した。 ・3年生の一部のクラスに、受験用の本を選び、教室へ大量貸出した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の計画的利用は、学校全体の取り組みとして対応していく。各教科の要望についても今まで以上に連絡を密にしてサービスの質を上げるよう努力する。 ・高等部は教室と図書室が遠く、なかなか利用機会がないため、新着本案内や朝の読書を利用して、図書室の広報活動をすすめていく。 ・1年生のガイダンスをすべてのクラスで行い、図書室の存在を高等部から入学した生徒にも印象付けていく。利用者を増やすため、入学時など初期の段階で、図書室の宣伝が行なえるよう、学年・担任に協力を仰いでいく。

3-⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習や問題解決的な学習、生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の授業において、従来のような教員の一方的な講義形式の「教わる学習」から、「自ら学ぶ学習」への転換を図る。 ・各教科の授業ではグループごとに課題に取り組みせたり、討論の場を設け発表させる等して、生徒が抱いた興味・関心とその後の自主的な学習につながっていくようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の授業において、グループでの共同学習、討論、発表等をできるだけ取り入れるようにし、生徒が自ら気づくことが学びにつながるような授業を実践した。 ・グループ討議などは慣れない生徒もいるため配慮することも必要であったが、回数を重ねるにつれ、自ら考えたことを自分の言葉で述べるできるようになっていった。 ・生徒の学びの姿勢が能動的になったと見受けられる部分は確かにある反面、教科書の内容を終わらせることを考えると、時間が足りない現状が見られた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの気づきによる学びという基本的な考え方のもと、1つの授業時間のなかで講義、質問、グループ討議など様々な授業形態を複合させるなどの工夫をしていく。

3-⑦	・学校行事、体験活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の体験や運営を通して、思考力や実践力を身に付け、感動や達成感が味わえるようにする。 ・生徒の安全を第一に考え、起こり得る危険を想定し、対処できる準備を整理しておく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・みどり祭や卒業生を送る会などの学内行事では、各実行委員が担当教員と連携を図り、リーダーシップをとることで、生徒主体の有志企画が年々充実してきた。自主性や積極性を発揮し、得意分野を様々な形で表現する生徒が増えた。 ・宿泊等の学外行事では、自然災害時の対応、最寄りの医療機関等を事前に保護者に示し、健康状態の調査を行うなどして安全に留意して実施した。また、行程は数か月前から業者と打ち合わせを重ね、時間的に余裕を持った見学や体験活動ができるよう計画した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の良さを残しながらも、より生徒主体での行事運営ができるよう、新しいことにも積極的に挑戦していく。 ・実行委員のみならず、より多くの生徒が積極的に意見を出したり、自発的に参加したりできるよう改善を図る。 ・学外行事の実施にあたっては、今後も生徒の安全に注意を払い、様々な側面から考え、細かく計画していく。又、状況を判断し臨機応変に対応をしていく。

3-⑧	<p>・生徒会活動などが、適切な管理体制の下に実施されているか。</p>
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学級委員会では、学校行事の一部を委員会で企画・運営を行う。 ・保健体育委員会では、保健体育関係の活動の運営・補佐を行う。 ・文化委員会では、「学校新聞」の発行を行う。 ・美化委員会では、校内及び周辺の美化活動を統括する。 ・ボランティア委員会では、各種募金活動やボランティア活動を統括する。 ・体育祭実行委員会では、体育祭の企画・運営を行う。 ・みどり祭実行委員会では、みどり祭の企画・運営を行う。 ・合唱コンクール実行委員会では、合唱コンクールの企画・運営を行う。 ・卒業生を送る会実行委員会では、卒業生を送る会の企画・運営を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・常任委員会（学級委員会、保健体育委員会、文化委員会、美化委員会、ボランティア委員会）の前後期制を継続させ、活動期間を長く設定し、生徒が主体的に活動しやすいようにした。 ・学級委員会では、4月20日に新入生歓迎会を行った。また、みどり祭でも実行委員とともに企画・運営を行った。 ・保健体育委員会では、次年度に向けて球技大会の企画を練った。 ・文化委員会では、年度初めに「学校新聞」を発行した。年度末にも発行予定であったが、諸般の事情で発行を見送った。 ・美化委員会では、各教室に花を飾るなど、校内の美化に努めた。また、校内外の花壇の整備を行った。 ・ボランティア委員会では、青少年健全育成推進街頭キャンペーンへの参加、赤い羽根共同募金、緑の募金の校内募金運動への参加、ダルニー奨学金、ecoプロジェクト（使い捨てコンタクトレンズ空ケース回収運動）等、様々な活動に参加した。 ・各実行委員会では、5月15日体育祭、9月16、17日みどり祭、1月23日合唱コンクール、2月23日卒業生を送る会を実施し、成功させた。 ・委員会の活動時間について、放課後の時間は毎日、学習支援センターの補習が学年別に行われるため、放課後に全学年集まったの委員会活動を行うことが難しかった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の活動時間については、朝の時間や昼休み等を使ってのランチミーティング形式の委員会活動を継続する。短い時間で効率的な活動をしていく。

3-⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動など教育課程外の活動が、適切な管理体制の下に積極的に実施されているか。 ・部活動が、教職員全体の協力体制の下で実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止、事故発生時、事故後についての対策を事前にまとめることにより、まずは事故を未然に防ぐ工夫をし、万が一事故が発生した場合においても速やかに安全対策や応急手当ができる準備を整える。 ・安全に楽しく活動ができるように、活動時間、活動場所、活動内容を定める。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・校友会各部で作成している「校友会・事故防止のための安全対策」にもとづき、安全や事故防止に配慮して活動を行った。 ・部活動ごとに休養日を設け、学習面との両立を図りながら安全面にも十分に留意して活動を行っており、大きな事故を起こさずに活動することができた。 ・活動中は、できる限り顧問が監督できるよう、特に運動部では顧問を2名以上配置している。職員会議など職員不在の時は、活動内容を工夫し安全性の高いものに調整するか、活動自体を自粛している。 ・可能な限り活動中に顧問が監督できるようにしているが、会議や校務が重なり、顧問不在の場面も散見された。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・施設や備品の不備、破損がないか常にチェックし、二次災害防止の観点も含めて速やかに修理や交換を行う。 ・顧問不在の場合は、同じ活動場所を使用する別の校友会顧問と協力して対処・連絡が取れるように工夫しているが、さらに、特別講習、学習支援センターによる補習、委員会活動など放課後活動を整理し、担当顧問が直接安全管理できる体制を整備していく。 ・中・高等部の組織として部活動を教育活動の一環と捉え、学校全体で生徒の実践力・思考力・共生力を育むための協力体制を整えていく。

3-⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導や習熟度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の質問に対応する個別指導や各種講座を学習支援センターにて実施することで、個別指導及び補充的な学習の役割を果たす。 ・各種講習を実施することで、発展的な学習及び補充的な学習の役割を果たす。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援センターによる補習については、基礎学力の構築を図るため、各学年指定した曜日に、与えられた課題に取り組むことを必須とし、過年度の学び直しを行うことができた。 ・学習支援センターについては、生徒一人ひとりの苦手な部分や躓いている部分に対応するため、公文形式（自学自習形式）にて行ったが、指導員に対しての生徒の自発的な質問は少なく、学習効果や生徒満足度といった点についてはそれほど高くはなかった。 ・学力上位者には予備校にて発展的な学習ができるなど、生徒一人ひとりの学力やニーズに合わせた各種コンテンツを揃えることができた。 ・1年生の特進クラスを対象とした特進講習、2年生、3年生を対象とした特別講習、長期休暇中を利用した夏期講習、冬期講習と実施することができた。また、講習では基礎基本の定着を目的とした講座から大学入試を目的とした講座まで幅広く設けることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援センターについては、学習効果や生徒満足度を高めるため、学習支援センターを運営する提携予備校とも協議したうえで、内容を充実させていく。

3-⑪	<ul style="list-style-type: none"> ・チームティーチング指導などにおいて、教員間で適切な役割分担がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の実験・観察においては安全を第一に、教科担当の他に実験助手がつきチームティーチングで実験・観察指導にあたる。 ・英会話の授業では各学年ともネイティブの教員に英語科担当がつき、授業の進度や生徒の理解度に合わせて英語科担当がフォローに入るようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の実験・観察においては、各班や個々の実験状況に応じて、実験助手がサポートすることにより、生徒が方法や手順を理解しながら時間内に実験を進めることができた。 ・2年次の理科課題研究では農園を活用する授業で、鍬等の農機具も使用するため、チームティーチングで生徒の動きに目を配ることができた点は安全面において大変良かった。 ・3年次の理系生物では教員2名と実験助手の3名体制で解剖実験を行い、各ペアでの実験進度を把握できたことで効率良く進めることができた。 ・英会話ではチームティーチングの形態での授業を以前から行っており、授業の進め方などは英語科のなかで確立されつつあり、学習効果は上がっている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・理科実験、英会話の授業におけるチームティーチングは概ね良い成果がでていたため、今後も同様の授業形態で行っていく。

3-⑫	<ul style="list-style-type: none"> ・併設校3部の連携・協力のための取組がなされているか。 ・幼稚部との連携に関する取組がなされているか。 ・初等部との連携に関する取組がなされているか。 ・中高連携など学校間の円滑な接続を図るための取組が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚部、初等部、中・高等部においては、行事や授業等の機会を通して可能な範囲で連携しつつ教育活動を推進する。 ・幼稚部と高等部では、高等部3年生選択科目である教養美術の授業において連携を図る。 ・初等部と高等部では、高等部3年生選択科目である教養美術と初等部1年生が授業において連携する。また、みどり祭を1つの機会として、高等部をより詳しく知ってもらえるよう校友会紹介や教科の展示等を通じて連携を図る。 ・中等部、高等部においてはそれぞれの発達段階を踏まえ、教科では中等部での学びが高等部につながるよう配慮するとともに、校友会活動や各行事においても学年ごとの役割をもたせた上で上級学年につなげる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・併設校3部では可能な範囲で、連携をとることができた。 ・幼稚部との連携においては、高等部3年生が教養美術の授業で制作した自主教材を使って、幼稚部の園児とふれあう絵本の読み聞かせ企画を実施し、実践的な学びを得ることができた。 ・初等部との連携においても、高等部3年生が教養美術で作製した作品を1年生に使うなどすることができた。また高等部入試広報担当者による教員向けの説明会及び保護者向けの説明会を実施した。 ・中高連携では、中等部において、学習習慣の確立と基礎学力の定着を目指し、各学齢に応じた学習の取り組みを行うことにより、高等部の学習にスムーズに移行することができた。また、総合学習「Kamakura Beyond Project」では、高等部2年生から中等部2年生までを縦割りにした起業家教育の中で、高等部2年生をトップに組織を編制し、学齢（発達段階）に応じた役割分担で活動を行った。その結果、下級生は上級生の活動を間近に見ることで、組織の運営を理解し成長することができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・初等部との連携を更に深めるため、みどり祭に来校された初等部の保護者に対して、初等部と中・高等部の接続教育について、アピールできる場を設けるように検討していく。

3-⑬	<ul style="list-style-type: none"> ・大学（鎌倉女子大学・鎌倉女子大学大学院・鎌倉女子大学短期大学部）との連携に関する取組がなされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習、教職実践演習フィールドワークにおいて大学との連携を図る。 ・鎌倉女子大学に進学を希望する生徒のための高大連携講座及び、進学が決定した生徒のための入学前集中講座や、大学教員への申し送りを通して、円滑な接続を図る。 ・みどり祭において大学の学友会と高等部の校友会との連携を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習、教職実践演習フィールドワークにおいては、予定どおり連携することができた。 ・高等部3年生が通年で授業を聴講できる高大連携講座及び、進路別に講義を受講できる入学前集中講座を実施した。さらに、鎌倉女子大学へ進学する生徒に関して、大学の各学部の教員に申し送りを行った。 ・大学のみどり祭においては、マーチングバンド部とフェアリーコンサート部が演奏・演技を披露した他、中・高等部のみどり祭では、フラダンス等いくつかの学友会が演奏・演技を披露し、会場を盛り上げた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携講座は通年で受講でき、単位を先取りできるという面は併設校のメリットといえるので、本学クラス（鎌倉女子大学進学希望クラス）の生徒にはいっそう目的意識を持たせて、将来につなげられるように指導する。

4. キャリア教育（進路指導）

4-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教職員全体として組織的にキャリア教育（進路指導）に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが、自らの強みを意識しながら学校生活を送り、進路学習を進めることができるようにする。 ・生徒一人ひとりが、自らの強みや適性役割を意識した、進路選択やキャリアデザインができるようにする。 ・生徒が自ら自己の可能性を拡大していく支援をする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活における役割ニーズや社会が要請する役割ニーズを、進路ガイダンス、学年行事、学級活動を通じて提示し続けた。その結果、自らの強みを意識して進路選択を考える傾向が強まった。 ・2年生や3年生には、具体的な学部・学科選択を行う際に、自らの強みや適性役割を考慮した選択を行うように促した。また、入試方法の選択も、得意分野を活用できる選択を促した。その結果、苦手回避の選択を行う生徒は減少してきた。 ・学年集会や進路ガイダンスを通じて、キャリアデザインの考え方や進め方、入試形式の選択方法をレクチャーして、目的を持った進路選択を行うように促した。その結果、安易な進路選択をする生徒が減少した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの強みを考慮した進路選択までの過程を更に詳細に把握して、どの情報をいつどのように提示すれば良いか、不要な情報は何かを検討を継続していく。 ・自己決定理論に基づいて進路選択で明確な目的を意識するように、キャリアデザインの考え方や進め方のレクチャー内容の検討を継続する。

4-②	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の適切な勤労観・職業観の形成や社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力・態度を育成するための体系的・系統的な指導が行われているか。 ・職場体験や就業体験が適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが、自らの強みと、その強みを生かした学びを、学校や組織、地域、社会のニーズに対してどのような形で貢献できるか考える機会を与える。 ・社会で活用する知識やスキルと大学などにおける学びとの関係性や、その土台となる高等学校における学びとの関係性について、生徒が理解できるように指導する。 ・看護体験や職場体験などに参加し、職業との適性や必要とされる知識やスキルを理解する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスなどを中心とした進路講演会を通じて、組織や地域、社会において必要とされる知識、スキル、ロールモデルを繰り返し伝え、自らが組織、地域、社会に貢献するとはどのようなことか、どのように貢献できるかを考えさせた。その結果、進路選択の理由が曖昧な生徒が減少してきた。 ・大学訪問などで、実際の大学の学びと社会で活用する知識やスキルの関係性、高等学校の学びがどのように大学の学びの土台になっているかを、実際の大学生の事例を通じて学ぶ機会を設けた。その結果、大学訪問やオープンキャンパスで学生に行動面や思考面の質問をする生徒が増えてきた。 ・将来、資格職を目指す生徒には特に積極的に職場体験に参加させ、適性を判断したり、高等学校での学びをどのようにしていくべきか考えさせた。その結果、職業に対するイメージだけでなく、適性を踏まえて職業選択をしていく生徒が増加してきた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・組織や地域、社会において必要とされる知識やスキル、人物像を繰り返し伝える方法については、座学だけでなく、企業インターンシップなどの体験的な取り組みも取り入れ、今後は本校独自の体験的取り組みを検討していく。 ・進路選択の理由が曖昧な生徒は減少しているが、保護者などからの外発的理由付けが増加傾向にあり、影響を与えているので、対策を検討したい。 ・職業に対する価値観が激しく変化する現状を、キャリア教育にどのように反映させていくべきか検討していく。

4-③	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の能力・適正等の理解のために必要な個人的資料や、進路情報が適切に収集され、活用されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 二者面談、三者面談による情報収集と、生徒への助言・指導を行う。 進路希望調査を実施し、必要な大学の情報収集を行う。 職業体験やインターンシップへの参加による適性の把握を行う。 模擬試験による学力情報の収集と学習スキルの把握をし、帳票返却による学習スキルに関するPDCAサイクル指導を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 二者面談や三者面談において、志望進路の方向性や志望理由を把握し、生徒自身の情報収集の方法を指導したり、適性を考える機会の提示を行った。その結果、各自で情報収集を行い、次の面談へのつながりが明確となった。 キャンパス訪問時に授業体験や活動体験をすることで、志望進路に対する適性を考え、生徒自身の学びを振り返る契機となった。ただし、適性を考える機会は自己の可能性を広げる機会であると捉えるような指導も平行して行った。 進路希望調査の記入に必要な大学の情報を収集することを通じて、生徒の情報収集力と情報活用力が向上した。また、担任や進路指導部が、生徒の収集した情報の偏りを見ることで、進路学習方法の傾向を把握し、情報の再収集の指導を行うことができた。 職業体験やインターンシップに参加し、振り返りの実習ノートを記入させた。その結果、安易な進路選択は減少し、生徒自身が志望進路の適性や必要な学びを考える契機となった。また、教員が実習ノートを見ることで、生徒の適性に関する偏りや必要な学びを指導することができた。 模擬試験の帳票返却の際に、学習に関するPDCAサイクルを考えさせることで、生徒も教員も学習方法の偏りや、不足している学習スキルを把握することができた。その結果、目標校に対する学習内容の偏りや学習方法の偏りを修正し、不足している学習スキルや学習内容を指導することができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> PDCAサイクルの見直し期間は生徒により、様々であるため、模擬試験の帳票返却時以外の指導時期の検討を継続する。 職業体験やインターンシップ参加時のコミュニケーションスキルに課題が見られたので、事前指導の際にコミュニケーションスキル訓練を含めることを検討する。

4-④	・進路相談（キャリア・カウンセリング）が適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・二者面談などを利用して、進路学習意識の向上と、文理選択や進路の方向性の検討への助言を行い、本人の決定を促す。 ・二者面談や三者面談などを通し、模擬試験の帳票などの学習情報を利用して学部・学科選択や志望校選択に関する助言を行い、本人と家族での決定を促す。 ・放課後に進路指導部の担当者による、キャリア・カウンセリングを実施する。 ・キャリア・カウンセリングに関する知見やスキルについては、キャリア教育学会認定のキャリア・カウンセラー資格を取得している進路指導主任が、研修会等で収集した情報を必要に応じて教員と共有し、活用する。 ・キャリア・カウンセリングに関する技法について、教員からの相談に進路指導主任が対応する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスで伝えた、進路学習の必要性や具体的学習内容を踏まえ、二者面談では、個に応じた進路学習方法を生徒と共に考え、生徒本人に文理選択や進路の方向性を決断（自己決定理論）させた。その結果、大学訪問やオープンキャンパス訪問時、大学のホームページなどの情報誌利用時に、進路学習の内容を踏まえた情報収集ができるようになってきた。 ・模擬試験の帳票やベネッセの大学検索ソフトを利用して、科目の適性或志望者順位などを考慮した学部・学科選択、志望校選択に関する情報を提供し、保護者や生徒自身が学部・学科や志望校を決定し、自己決定意識の高い進路選択を行うことができるよう促した。 ・放課後等に行った進路指導部の担当者によるキャリア・カウンセリングでは、入試状況や将来のキャリアデザインを踏まえた入試相談や、生徒の適性を踏まえたキャリア構築の相談を受けた。その結果、学部・学科選択、大学選択に生徒の主体性が芽生え、自らのキャリアデザインを意識した学部・学科、受験校選択を行う生徒が更に増えた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・二者面談において提示する進路学習の方法について、研究会等で得られた情報の学年団への提供方法を更に検討していく。 ・生徒が進路の方向性、文理選択、学部・学科選択、大学選択などを自己決定するための情報提供を更に充実させる。 ・進路指導が、進学指導に偏った指導とならないように、進路指導部の教員がキャリア教育やキャリア・デザインに関する知見を収集できる環境整備を行っていく。

4-⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育（進路指導）のための施設設備が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア学習に関する相談について進路相談室を利用して行う。 ・高等部校舎の1年生から3年生までのフロアーに掲示板を設置し、大学の公開講座やオープンキャンパス、入試情報分析会のお知らせなどを掲示する。 ・自習室に入試に関する問題集や各大学の赤本などを配架し、受験準備のサポートを行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な進学先に関する相談など、模擬試験の結果や大学に関する各種情報が必要な相談を行う際には、プライバシーに配慮して進路相談室を利用し、充実した情報提供を行った。また、受験期の心理的不安を解消するために、キャリア・カウンセリングなども行った。その結果、具体的な情報を獲得し、不安を吐露する機会を得ることができたため、心理的に安定して受験準備に取り組む生徒が増えた。 ・進路相談室を生徒が利用したい時に、教員に声をかければ利用できるようにした。 ・掲示板上による講座情報や入試情報を提供することで、大学に関する情報収集の機会を増やすことができた。また、低学年であっても、早い段階から個別に大学訪問を行ったり、入試情報に触れることで、1年次の段階からオープンキャンパスに積極的に参加する生徒が増えているなど、進学に関する意識を高めることができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況に応じて、掲示板やクラスの掲示板に掲示する内容を更に厳選し、大学に対する興味を持って進路学習ができるようにしていく。 ・生徒の希望を聞きながら、自習室の配架本を更に充実させる。また、受験準備に対してより意識が高まるよう過去問を目に見える個所に配架していく。 ・教員のキャリア・カウンセリング技法の訓練を行い、技量向上の仕組・環境を整備していく。

5. 生徒指導

5-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教職員全体で生徒の状況についての理解を共有し、生徒指導に取り組む体制が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導計画に基づいた生徒指導を行う。 ・職員会議において各学年の生徒状況を報告し、生徒の状況について共有する。 ・生徒指導事案について、全教職員で共有できるシステムを考案する。 ・生徒指導部からの細かい生徒指導に関することを即時的に連絡し、各学年で対応がしやすいようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導ハンドブック」の一部という形で生徒指導計画を年度最初の職員会議において提示し、学年を超えた一貫した指導の指針として有用であった。 ・前年度に引き続き、職員会議において生徒状況の報告が月例で実施され、大きな問題を抱える生徒については生徒指導部からの報告の形をとり、全教員で見守ることができるようにした。 ・前年度完成した特別指導案件のデータベースを用いて、細かな指導案件も教職員内であれば、いつでも開示できる状態になった。 ・学校グループウェアの定着により、即時的に連絡や情報提供ができるようになった。 ・生徒情報を安全かつ即時的に共有できる方法を検討し、平成30（2018）年度より情報クラウドサービス（Classi）を導入することとした。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導として平成30（2018）年度から導入される情報クラウドサービスを利用するにあたり、実質的な問題点等を洗い出し、今後も安定的に利用できるように検討を重ねていく。

5-②	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導のための教育相談が計画的に行われているか。 ・スクールカウンセラー等との連携が効果的になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの生活状況や心身の状態に関する情報を共有し、生徒の変化に迅速に対応する。 ・教員、保健室、カウンセラーが相互に定期的な報告、連絡、相談を行うことで、学年単位、学校単位で生徒の心のケアを行う体制を整える。 ・生徒及び教員が教育相談室を利用しやすい雰囲気づくりを進め、学級・学年の生徒指導に活用できる環境を整える。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・月に一回、定期的にスクールカウンセラー、養護教諭、学年主任などが集まって各学年の生徒の情報を共有し、注意深く生徒の様子を見守ることができた。 ・スクールカウンセラー、養護教諭、学年主任などそれぞれの立場から生徒の情報を集約することによって、様々な角度から一人ひとりの生徒の状況を把握することができ、生徒指導の場面において適切かつ迅速な対応に役立てることができた。 ・学年内の連携や学年と保健室との連携により、カウンセラーが対応しなければならない事案に発展する前に適切な対処ができた。 ・生徒への対応や情報共有については、スーパーバイザーの協力も大きな効果を発揮した。 ・カウンセラーや保健室からの共有の必要がある情報が、担当教諭や学年主任までに留まり、他の教員が十分状況を把握できていないケースが一部見られた。 ・新入生の全員面談を行い、全生徒が一度はカウンセラーと話す機会を設けることによって、教育相談室はより利用しやすい雰囲気になってきた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセラーや保健室からの共有の必要がある情報については、授業や部活動などで気になった場面と合わせて、より多角的に情報集約ができる環境づくりを進めていく。 ・教育相談室については、今後もだれもが気軽に利用できる場所としてその役割を定着させていく。

5-③	・生徒の問題行動の状況を共有し、適切に対処できているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「問題行動対応指針」を明確にし、問題行動に対する指導を平準化する。 ・各学年の特別指導等についての記録は、パソコンで一元的に管理する。 ・重大な問題行動が起こったとき、教職員間での速やかな情報共有を行う。 ・学年・生徒指導部・管理職での情報の伝達を円滑に行い、最善の対処を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「問題行動対応指針」を作成し、教員間での指導を平準化することができた。 ・問題行動のあった生徒が書いた「反省文」を進路指導部に提出することで、特別指導の記録がより正確になった。それらをパソコン上で一元管理することで、特別指導案件の傾向を把握することできるようになった。 ・重大な問題行動が起きた場合に、内容に応じて学年会議、分掌会議、臨時職員会議を開催し、教職員に速やかな情報共有することができた。 ・問題行動の種類によって、学年で処理できることと生徒指導部案件とに整理をして、情報過多にならないように心がけつつ、重大な案件については、即座に連携を取り合うことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動の背景に家庭内トラブルや生徒自身のメンタルなど、複雑な問題が隠れている場合がある。その場合でも「問題行動対応指針」を杓子定規に扱おうとする傾向もあり、指針の中に「情状酌量」についての言及が必要か、検討していく。

5-④	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができる生徒を育成するための指導を行っているか。 ・相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる生徒を育成するための指導を行っているか。 ・社会の一員としての意識(公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど)を身につけた生徒を育成するための指導を行っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自発的に考え、行動する機会を増やし、思考力や実践力を高める。 ・グループ活動等の体験的な学びと教員からの指導を交えて、奉仕の精神や公德心などを養い、互いを認め合い、高め合う雰囲気構築する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中でグループワーク等のアクティブラーニングを取り入れる教員が増えた。 ・体育祭では保健体育委員や各部活動が企画・運営の中心となり活躍した。また、みどり祭や卒業生を送る会などの行事においても生徒が主体的・自主的に活動する習慣を身につけ、意欲的に活動するようになった。 ・エンカウンター講座やピア・サポート講習会等を通して、コミュニケーション能力を高めることにより、豊かな人間関係を構築できる生徒を育成することができた。 ・「Kamakura Beyond Project」を通じて、学年を超えた人間関係の構築を行い、コミュニケーション能力を高めることができた。 ・朝のショートホームルーム等を利用して、担任がその時々により即した課題に関する話をしたり、活動をしたりすることによって、社会の一員としての意識を高める指導を行った。 ・情報モラルに関しては、インターネット関連事業会社より講師を招き、ネットワーク環境でのコミュニケーションの方法等をグループワークを通して指導を行った。これらの活動を通じて、生徒間でも情報モラルや道徳心に関する関心が高まった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・自主性・主体性を尊重した指導を行う中で、生徒自身が失敗をする機会も増えてくる。その失敗を通じて学ぶことも視野に入れた上での教員の指導が必要となり、その想定と受け入れる度量の大きさを備えた指導について検討する。

6. 保健管理

6-①	<ul style="list-style-type: none"> ・法定の学校保健計画が作成され、適切に実施されているか。 ・生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談が適切に実施されているか。 ・日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断が適切に実施されているか。
取組目標	<p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画を作成し、適切に実施する。 ・生徒の保健管理（薬物乱用防止、心のケア等を含む）、保健指導・保健相談を適切に実施する。 ・日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組、健康診断を適切に実施する。 <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画を見直し・作成し、適切に実施する。 ・生徒の保健管理を実施し、より効果的な方法に取り組む。 ・生徒の自己健康管理能力向上のために、疾病予防やけがの防止など行動変容を目指した保健指導を実施する。
取組内容 と成果	<p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健室と各教科指導の連携により、学校保健計画を速やかに作成し、計画に沿った保健指導を実施することができた。 ・職員室、保健室、教育相談室を中心に、保護者とも連携を取りながら保健指導、保健相談を行うことができた。 ・クラス担任、学年主任、教科担当者と保健室が連携して日常の健康観察や心のケアを行った。 ・年2回の体位測定を始め、年初の健康診断など、適切に実施することができた。 <p>【保健センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校保健計画を作成し、計画に基づいて実施した。 ・保健管理の点では、関係教職員での情報共有と生徒や保護者へ必要な働きかけを行い、情報を活用した形での充実を図った。 ・保健指導は、保健室利用時の対応や受診指導、発行文書を通して、本人に対し随時行ったが行動変容まで結びつけることができなかった。 ・保健相談を通して知りえた家庭の情報については、学校内での情報共有だけでなく、必要に応じて外部機関につなげた。 ・感染症情報の把握については、職員の共通認識を図り、罹患情報を早く把握することができた。 ・健康診断、保健講話、色覚検査等の保健行事を滞りなく実施した。
今後の課題 と改善策	<p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科による保健指導は、教科の単元に応じた内容が中心となるため、各教科の横のつながりを更に深める。 ・担任は日々の業務のなかで生徒とかかわることができる時間が十分に取れていない現状にある。放課後や休み時間をもっと生徒と過ごせるような、業務体系の抜本的な改革に向けて検討する機会を作っていく。 <p>【保健センター】</p>

	<ul style="list-style-type: none">・生徒の健康実態に基づいて、学校保健計画を見直す。・保健指導の点から、受診勧告者の早期受診を目指し、受診勧告書の様式の変更と併せて個別面談の実施に取り組む。・健康相談に関して、緊急性のあるケースの個別カンファレンスが行われる際には、保健室の立場から見解を提示する。・感染症蔓延防止及び、学習環境保持のため、教室の換気を徹底するために、新たな取り組みを計画する。・必要に応じ保護者との面談や連絡を通して、変化する健康情報の把握・共有に努める。
--	--

7. 安全管理

7-①	<ul style="list-style-type: none"> ・法定の学校安全計画が作成され、適切に実施されているか。 ・学校事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等が作成され、活用されているか。 ・校舎や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全計画を作成し、適切に実施する。 ・学校事故や不審者の侵入等、緊急事態発生時に適切な対応ができるよう、危機管理マニュアルを作成し、活用する。 ・校舎や通学路等の安全点検や教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取り組みを定期的に行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全計画を作成し、それに則って教育活動を行うことができた。 ・「防災・防犯マニュアル」を作成し、全校生徒に配付し、防災教育及び防犯教育に活用した。 ・部活動ごとの活動の特性にかんがみて「各部事故防止対策」を作成し、それに則った活動を行った。大きな事故や怪我はなく、安全に活動することができた。 ・校舎の安全点検に関して各場所の責任者を設定し、定期的に点検を行った。また、週番活動のなかでも毎日点検項目を設定して、校舎の安全点検を実施している。 ・通学路の安全点検については、不審者情報等に基づき適宜見回りを行った。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時の校門指導は週番活動と併せて行っている。下校時は部活動単位で分担を割り振り、各部の顧問がバス停周辺での安全指導等を行っているが、行事や部活動の活動日、活動時間の変更等によって担当者不在の場面も生じているため、状況にあった臨機応変な指示と対応ができるよう改善を図る。 ・大船駅、本郷台駅周辺の安全指導・マナー指導も実施しているが、時期、時間帯、頻度などについて、より効果的な方法を検討する。

7-②	・学校防災計画等が作成され、適切に実施されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・防火・防災計画を整備した上で、有事における安全確保のための基本行動を周知させる。 ・各家庭にも災害時における基本行動の徹底を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・岩瀬キャンパス全体の防災訓練を2回、防災訓練内で消火器取扱い訓練と屋内消火栓取扱い訓練を各1回行った。また、教職員対象の救命救急講座を1回実施した。 ・中・高等部独自の「防災・防犯マニュアル」を発行することにより、生徒だけではなく保護者に対しても、防災に関する心構えや基本行動の周知を行うことができた。 ・防災訓練後の備蓄食糧食事体験等を通して、生徒の災害時の食事に対する意識を高めた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場面を想定し、併設校各部、総務部、管轄消防署と相談を行いながら、生徒や保護者も含めた有事に対応できるような訓練を今後も継続していく。 ・特定防火対象物のなかでも大規模建物に該当する岩瀬キャンパスにおいて、幼稚部、初等部と連携した安全行動や災害時用備蓄品の管理等を引き続き行っていく。

8. 組織運営

8-①	<ul style="list-style-type: none"> ・校長など管理職は、適切にリーダーシップを発揮し、他の教職員から信頼を得ているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員との対話を重視し、意思の疎通を心がける。 ・教職員の意見や相談には真摯に応えるなど、良好な職場環境を心がける。 ・あらゆる教育活動において、管理職から適切な助言を呈する。 ・学校運営の方向性を示し、策定した教育ビジョンの実施に取り組む。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職は、全教職員との面談を実施したり、学年・分掌主任などとの話し合いをしたりすることで、意思疎通が図られ、信頼関係が得られた。 ・教育活動全般において、管理職の適切なリーダーシップにより、教職員の一体感が生まれた。 ・管理職は、多くの教職員から種々の相談を受け、またそれに真摯に応えることで、教職員との信頼関係を維持・発展させることができた。 ・学校案内にも明記された「育成する生徒像」の目標に向け、「実践力、思考力、共生力」の育成に取り組んだ。その結果、授業や行事など教育活動全般において、生徒が自ら進んで活動する場面が数多く見られるようになった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員と管理職の信頼関係は十分に築かれており、今後も継続に努める。 ・部長、次長のリーダーシップのもと、教職員一人ひとりが学校経営に携わっていることを自覚するよう、いっそうの意識改革を進めていく。 ・策定した教育ビジョンの完成には時間が必要なため、今後も継続していく。

8-②	・校務分掌や主任制が適切に機能するなど、組織的な運営・責任体制が整備されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教員が各校務分掌のいずれかに所属し、組織的な学校運営を行う。 ・各主任は、校務が確実に遂行されているかを適宜チェックする。 ・前例踏襲を見直し、より良い学校運営を目指す。 ・管理職との連携を密にし、的確さを欠くことのないように配慮する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全員が校務を担うことで、学校運営への参画意識が強化された。 ・組織的な校務運営の形態が定着し、各分掌主任は、分掌担当者への調整や助言を行った。その結果、ほぼすべての校務内容を着実に遂行することができた。 ・長年の仕事をそのまま踏襲する傾向に対して、管理職からの指示により改善を促し、その成果があらわれてきた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・従来から継続されている校務の内容や方法が見直され、教育目標に即した内容への見直しが図られてきたことを今後継続する。 ・組織としての機能は果たしているが、教職員の意識には依然として軽重がうかがえた。分掌主任による指揮を高め、仕事内容の質的向上に努める。 ・管理職への相談は非常に多く、学校運営の方向性は一致していると考えられるが、さらに個々の教員の資質向上を図り、学校の運営を確固たるものとする。

8-③	・職員会議等が学校運営において有効に機能しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議、職員会議のほか、分掌会議、学年会議を定例化する。 ・運営会議での合意を踏まえ、職員会議での指示・伝達を確実に実施する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・行事予定に学年会議、分掌会議を位置づけたため、会議の定例化が図れた。 ・運営会議、職員会議には十分な時間を確保し、教職員への意思疎通を図ることができた。 ・事前の資料配付等により会議の内容を周知することで、円滑かつ有意義な会議への転換が図れた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・会議による組織の活性化が図られているため、定例の会議以外にも、必要に応じて随時開催する。 ・会議の内容を事前に周知することが有効であったため、今後も同様に進める。 ・学年会議、職員会議等において、教職員全体で共有した情報は生徒指導等の教育活動に生かされており、今後も情報共有を続けるよう努める。

8-④	・各種文書や個人情報等の学校が保有する情報が適切に管理され、また、情報の取扱方針が教職員に周知されているか。
取組目標	・職員の守秘義務の徹底を図る。 ・個人情報に関するすべての事柄の取り扱いは、慎重かつ適正に扱う。
取組内容 と成果	・個人所有の情報機器の使用及び、デジタルデータの持ち出しを禁止することで、情報の漏洩を防いだ。成績処理を持ち帰らずに行うことを励行した。 ・生徒の氏名、住所、成績等一切の個人情報は、教務部で一元管理されている。
今後の課題 と改善策	・今後も引き続き、個人情報管理の徹底に努める。

9. 研修（資質向上の取組）

9-①	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を全教員が行うことや、授業研究を継続的に実施することなどを通じ、授業改善に全校的に取り組んでいるか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・11月の学習月間に教員が授業を参観できるよう授業公開週間を1週間設け、中・高等部の教員同士だけでなく、初等部の教員にも授業を公開し、授業改善につなげる。 ・授業形態は従来の講義形式の「一斉授業」から「自ら主体的に学ぶ学習」に転換を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・1週間の授業公開週間を使い、各教員自身の担当教科のほか、担当教科以外の授業についても相互に参観し、また、初等部の教員にも公開した。 ・授業の形態を能動的でかつ生徒が主体的に学ぶ共同学習、討論、発表等に転換しており、生徒自らの気づきが学びにつながるような授業を実践した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科ともグループワークやペアワークを取り入れたり、討論・発表の場を設ける等して生徒の主体的な学びを促す授業を実践していく。同時に受験学力を付けることも意識し、教科書の内容を早めに終える必要があるため、演習とのバランスをとりながら行っていく。 ・生徒の学力向上のために、授業研究、教材研究、専門分野の研究、入試問題研究を通して、教員自身の授業力の向上を図っていく。

9-②	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の課題が適切に設定され、実施されているか。 ・教職員が積極的に校内研修・校外研修に参加しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善と募集力の向上をキーワードに校内研修・校外研修とも教科や分掌ごとに幅広く研修に参加することを促していく。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・どの教員も教科ごとの研修に加え、所属している分掌の研修にも積極的に参加した。 ・中・高等部の教員対象に全体の研修会を8月、1月、3月の3回実施した。テーマが進路指導、生徒指導、学習支援についてと多岐にわたる内容であり、大変有意義な研修会であった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・各研修に参加する場合、週休日の関係で担任の代わりに帰りのホームルームに行くため、出張に出られない状況がある。学年や分掌で交代するなど、多くの教員が研修に参加できる環境を整えていく。

9-③	<ul style="list-style-type: none"> ・校長等の管理職が定期的に授業観察を行い、教員に対して適切な指導・助言をしているか。 ・教員の指導の状況を的確に把握するとともに、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観（学校開放デー）、授業公開週間だけでなく、平素の授業においても部長、次長、スーパーバイザー、教科主任が授業観察を行い適切な指導にあたる。 ・授業観察で把握できた教員の不適切な指導については、スーパーバイザー、教科主任が担当教員に助言する他、改善がなされるまで次長、部長が指導にあたる。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察はスーパーバイザーを中心に行われ、担当教員に、指導上の留意点・改善点が詳細に伝えられた。その後改善されているか否かの確認を部長、次長が行った。 ・指導が不適切と指摘された教員の授業内容や方法はかなり改善され、授業アンケートが実施されたことと合わせて、授業力アップに効果的に働いている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開週間だけでなく、定期的に授業観察をするため、スーパーバイザーの担当授業時間数がある程度調整していく。 ・指導に問題が見受けられた教員に対しては、改善が行われた内容を随時確認するとともに、教科内での研修や外部研修も活用して、質の高い授業が生徒に提供できるようにする。 ・指導が不適切な教員の事例については、部長、次長、教科主任を中心として引き続き助言をし、教科内の教員間でも共有する。

10. 保護者・地域社会等との連携

10-①	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が学校運営に参画し、協力できる体制を整えているか。 ・教育ボランティアを集めるシステムができているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が行事等を通じて、学校運営に協力できる体制を整える。 ・必要に応じて外部の教育ボランティアや専門家の協力を得られる体制作りを検討し、その基礎を構築する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・みどり祭の保護者企画は、前年度に引き続き保護者の自主的な活動が見られ、大変有意義なものとなった。 ・総合的な学習の時間の「Kamakura Beyond Project」では、外部のボランティアや専門家の講話、指導を導入し、企画の体制作りの検討やみどり祭への事前準備に向けて進展が見られた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・みどり祭の保護者企画は、今後も継続的に行うことで、保護者との連携を密にし、学校と保護者の協力体制を作る場として今後も有効に活用する。 ・今後も外部のボランティアを活用し、次の発展につなげていくために、更なる検討や準備を行っていく。

10-②	・学校公開を定期的実施しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観（学校開放デー）や体育祭等の行事を通して、学校公開を定期的に行う。 ・保護者講座や保護者対象の立居振舞講座等を通して学校と保護者との関連を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観（学校開放デー）では、多くの保護者に学校を公開するために、曜日の設定や授業を自由に参観できるように工夫し実施した。 ・体育祭では、保護者参加種目を設定することで、共に活動する場となった。 ・保護者講座も、保護者と教員が知識を広げつつ、楽しみながら実施できるよう内容を工夫し、円滑な交流の場として機能した。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観（学校開放デー）は学年が上がっても、参加人数が減少しないように、今後も実際の生徒の学習の様子を見てもらう体制作りを行っていく。 ・保護者講座においては、よりニーズの高いものに特化し活性化していく。 ・次年度も学校開放デーを設けるなど広く公開する体制を継続していく。

10-③	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握するための取組を行っているか。 ・教育相談体制を整備し、生徒・保護者から寄せられた具体的な意見や要望に、適切に対応しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者のニーズを聞き取り、現状把握を行い、内容を精査し反映させる。 ・学校生活における生徒の様子や現状を、教員と保護者が共有できる場としての保護者会や保護者懇談会を実施する。 ・三者面談を通じて、直接担任と生徒、保護者が話し合うことで、生徒の抱える問題や保護者の不安に迅速に対応する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎に授業に関するアンケートを実施し、アンケート結果を踏まえ、授業の見直しや、スーパーバイザーと協力した授業改善に取り組むことができた。 ・学校生活に関するアンケートを実施したことで、表面化されていないクラス内の傾向を知ることができ、学級担任のクラス運営に役立てることができた。また、いじめの原因となり得る事象の発見や、学級の生徒の思いが気づきやすくなった。 ・保護者懇談会を実施し、管理職が直接保護者と意見交換をする機会を多く設けた。 ・保護者会の効果としては、複数の保護者が一堂に会し、直接話をすることができ、家庭間の情報共有がよりスムーズにできている。必要に応じて、学年保護者会を実施することで学年間の話題を共有することができた。 ・三者面談は、限られた時間内であるため、すべての相談ができるわけではないが、必要に応じ、別の日に担任以外にも学年主任、スーパーバイザー、カウンセラーを交えて実施するケースもあった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関するアンケートの質問内容を精査し、より学力向上やアクティブラーニングにつながる生徒の意見を聞き取り、これまで以上に生徒が主体となり、双方向性と活気のある授業展開の構築を行っていく。 ・学校生活に関するアンケートについては、アンケート項目が多いことや、生徒のアンケートに対する慣れによって、回答方法が雑になり、正しい実態評価につながるのかといった不安要素もあるため、アンケートの質問内容を簡潔化し、効果的な質問へ絞っていく。 ・保護者懇談会については、学年があがると懇談会参加者が固定化される傾向があり、より多くの保護者の意見を把握する方法を検討していく。 ・三者面談においては、面談時間が限られているため、必要に応じて、問題を多く抱えている生徒や家庭においては他日面談日を設けるなどし、柔軟に対応していく。なお、面談前には学年会議を行い、情報共有に努めているが、更なる取り組みを行っていく。

10-④	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便りや学級便りの発行など、主として保護者を対象とした情報の伝達・公開が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と学校の良い信頼関係を構築していくために、定期的に情報の伝達・公開を行う。 ・情報提供により、保護者が学校に関心を持ち、学校理解の一つになるようにする。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学園全体の広報誌「学園だより」、機関誌「緑苑」、進路指導部からの「キャリア・進学だより」、生徒指導部からの「生徒指導部だより」、保健室からの「保健だより」、相談室からの「相談室だより」等を通じて、行事予定、生徒の学校での活動の様子、進学、キャリアの情報、生徒指導上で留意すべき事柄等を定期的に様々な形で提供した。 ・平成29（2017）年度は各学年が「学年だより」を定期的に発行し、生徒の日常生活の様子、学年の担当からのメッセージ、翌月の行事予定などを掲載した。各学年がその時々伝えたい情報を提供し、特徴がよく出ていた。情報共有のツールとして活用し、大変有意義なものとなった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「学年だより」は、今後も保護者との信頼関係を築く基礎となるよう、掲載する内容については、保護者が知りたいと考えている情報を選んでいく。また、生徒も興味を持って目を通せるものを提供していく。 ・定期的な発行が可能となるよう、全校で発行日の統一を図る。

10-⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然や文化財、伝統行事などの教育資源が活用されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間や校外学習の時間を利用し、鎌倉の自然や文化財に触れる機会を積極的に増やし活動する。 ・「赤い羽根」等のボランティア活動を通じて地域社会との連携を深める。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習で鎌倉の神社、仏閣、産業等について事前学習し、グループ活動を実施した。 ・赤い羽根街頭募金等に意欲的に協力し、各クラスの委員を中心に積極的に活動した。 ・地域社会との連携の一つとして、児童文化部によるかさまの杜保育園への訪問において、園児と触れ合う時間を設けた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会との連携をよりいっそう強めるために、企業や外部の専門家の導入について、検討していく。また、生徒の自主的な活動を引き出すための、余裕を持った時間確保を行っていく。 ・募金の意義や必要性を丁寧に説明し、より自主的な活動につなげていく。

10-⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習生の受け入れ体制が十分に整っているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習期間や取組内容を確立させた上で、事前に十分に学校として指導を行い、自覚をもたせる。 ・教育実習生が生徒の前で、教員としての自覚をもち、自発的に行動できるよう担当教諭を中心に指導する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前に事前のガイダンスを行い、学生の自覚と意思を確認して取り組ませることができた。 ・実習開始直後には、部長から実習を行う際の心構えを説明し、実習に臨ませた。 ・教科指導と学級指導だけでなく、生徒への接し方や実習日誌の記入についても、それぞれの担当教員が、適切に指導しているため、実習期間で学生に大きな成長が見られた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・事前のガイダンスで、実習の重要さと、それを乗り越えるだけの努力が必要であることを、十分に学生に説明していく。 ・実習生の受け入れ人数について、減少傾向が見られるが、担当教員1名につき実習生1名の体制がきめ細かい指導をするための理想であるため、業務効率化の観点からも適切であると考ええる。

11. 入試・広報活動（情報提供）

11-①	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動についての説明会を実施したり、学校案内を配付したり、ホームページを活用するなど、学校に関する様々な情報が、多様な媒体を用いて分かり易く、かつ適切な分量で提供されているか。 ・ホームページに校長名、学校の所在地、連絡先、学級数、生徒数、教育課程などの基本的な情報が提供され、情報が定期的に更新されているか。 ・生徒等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・告知媒体を増やし、情報の受信環境に影響されることなく学校情報を伝える。 ・発信するその時期の最新の学校情報を逐次受験生と保護者に発信できるようにする。 ・明確でわかりやすい情報提供を心がける。 ・受験生、保護者、中学校教員に直接学校の魅力を伝える機会を増やす。 ・重要な情報を繰り返し伝える工夫を行う。 ・生徒等の個人情報の保護に十分配慮する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやダイレクトメール、校外説明会や中学校訪問での告知活動など、多様な媒体を通して入試イベントの内容を伝えることで、より多くの人に学校の情報を伝えることができた。 ・定期的に説明会を実施する中で、本校の最新の教育内容を紹介するとともに、学校行事や日々の教育活動の様子をホームページの「ニュース&トピックス」の欄で随時、発信した。こうした工夫によって最新の学校情報を素早く外部に伝えることができた。 ・最新の説明会の情報は、ホームページのトップ画面でバナーを表示して告知をし、近日常に行われる説明会がいつなのかわかりやすく伝えることができた。また平成30（2018）年度から始まる新しい教育内容については別途リーフレットを作成することで、改革の概要を明確に発信することができた。 ・説明会の回数を増やし、個別に面談ができる相談会を冬に2回実施することで、多くの受験生や保護者と頻繁に最新の情報を共有することができた。また中学校訪問の機会を増やし、ホームページやダイレクトメールでは伝えきれない本校教育内容の魅力を直接関係者に伝えることができた。 ・ホームページへ掲載する際、または学校案内等の印刷物を発行する際には、生徒の個人情報保護を念頭に、事前に生徒保護者に「承諾書」を配付し、理解・承認を得た後に、円滑に進められた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのトピックや配布する資料に変化をつけることで、見る側を飽きさせない告知活動を行うようにしていく。 ・募集要項など入試にかかわる情報については、受験生が志望校を決定する早い時期に配布を始められるよう、作成計画を立案する。 ・新しい情報を発信するだけでなく、過去の説明会の発表内容や前年度の入試結果などもホームページなどで閲覧できるように広告媒体の制作を進める。 ・中学校訪問については、地区ごとに分担を決めて定期的に複数回訪問できるような体制を作り上げていく。 ・ホームページや学校案内等に掲載された生徒については、実際の広告物をすぐに該当の生徒保護者に配布できるように配慮する。

11-②	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部の募集力向上に向けた改革における事務支援が適切に行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部入試・広報担当教員の業務補佐と支援の充実を図る。 ・募集人員充足に向け、①学校案内制作、②ホームページ制作、③学校説明会運営、④広報媒体等への交渉、⑤他校入試・広報関連の情報収集、⑥学習塾・中学校訪問頻度向上、⑦校外進学フェア運営等の支援活動等を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内制作の支援を行った。学校案内制作会社へのアドバイスと、高等部入試・広報担当教員とのパイプ役として制作支援を行った。同時に制作費用の削減に向けた折衝を行い、パンフレットとしての費用対効果の向上を図った。平成30（2018）年度の学校案内制作会社の見直しを行い、制作業者の切り替えを支援した。 ・ホームページの「ニュース&トピックス」への記事掲載支援を行った。高等部における教育活動、生徒の学園生活等を閲覧者に対してタイムリーに、更に分かりやすく提供した。また、学校説明会・校外進学フェア等の運営支援を実施した。 ・広報ツールの制作支援を行った。学力向上プランの冊子、チラシ、交通広告等の制作支援を実施した。また、その制作費、及び媒体使用料等の削減に向けた交渉を積極的に行った。これにより広報予算の有効活用が図られ、告知頻度の向上につなげた。 ・塾、及び中学校訪問の頻度向上を図った。高等部長、並びに担当教員と連動した学習塾・中学校に対する訪問頻度を加増した。告知活動の充実を図り、今後の募集力増強に寄与した。 ・接続教育推進プロジェクト会議を開催した。幼稚部から高等部までの現状と課題を共有し、各部の戦略的な募集力向上を図った。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・高等部の募集定員の充足に向け、入試・広報担当教員の支援活動の充実を図る。 ・計画的な募集活動の補佐に加え、教育活動を効果的に伝える学校説明会の運営の支援等を行い、志願者数の増加を図る。 ・学習塾に対する告知の増強を図る。塾講師へ高等部の優位性を強く発信する。同様に、中学校訪問時における高等部認知度の向上を図る。

12. 教育環境整備

12-①	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学習内容・学習形態などに対応した施設・設備の整備が行われ、活用等が適切に図られているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 音楽室、美術・工芸室、書道室、情報処理演習室、調理実習室、家庭科室（被服）、物理・地学室、化学室、生物室など各特別教室を有効活用する。 各教室や特別教室に設置された電子黒板を有効活用する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 音楽室、美術・工芸室、書道室は各教科の授業で活用された。特に、2つある音楽室は、合唱の練習などの際には、パート別に分かれ2カ所とも有効に活用された。 情報処理演習室は授業のほか、総合的な学習の時間などにも活用された。 家庭科では、調理実習室、家庭科室（被服）とも実習等で、頻繁に活用された。 理科室も環境整備が整ったことにより使用しやすくなり、実験などに多用された。化学室のドラフトチャンバーも実験の際に活用された。 教室の電子黒板は、主要教科の授業においてパワーポイントで授業を進める科目が多いため、多用されていた。また、動画や画像、ホームページなどの視聴覚教材を使用する際に多く活用された。さらに、パワーポイントを用いた生徒の発表の際にも有効であった。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 施設面では非常に充実しており、各教科や総合的な学習の時間などで有効な活用がなされている。教科を横断した活用なども模索することで、より有効な活用を行っていく。 電子黒板で使用したコンテンツを、教科内だけでなく、学校全体で共有し、より充実したものにしていく。 学年を越えた学習活動の際、大教室や演習室での電子黒板などの視聴覚教材の利用法を検討していく。

12-②	・施設・設備の安全・維持管理のための点検及び整備が行われているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の安全を確保する ・施設・設備の機能を維持する。 ・より快適な環境で生徒が学校生活を送れるよう環境整備を行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検により施設・設備の状況を把握し、不具合に対処した。 ・平成26（2014）年度に本館に多目的トイレの設置工事を行ったが、平成29（2017）年度3月には東館の2階に多目的トイレの設置工事を行った。 ・平成26（2014）年度に本館においてスロープ設置工事を行ったが、平成29（2017）年度3月には本館、東館、松本講堂及び北館の各棟をつなぐべくスロープの設置工事を行った。 ・第2体育館において、耐震対策として天井照明器具の落下防止対策工事を行った。 ・職員の日常作業の他、清掃・樹木管理、プールの保守点検等業者への委託による環境整備・安全確保等も行っている。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・年次、月次、日常の点検による施設設備の安全管理を継続する。 ・委託業務の内容等が実状に合わせたものになるよう見直しを図る。 ・創立80周年記念事業として岩瀬キャンパス再整備計画が構想されているが、その内容を踏まえて設備整備計画を見直し、実行する。

12-③	・教材・教具・図書の整備や学校教育の情報化が適切になされているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教育活動の目的に適う場所や教材・教具・図書などの教育環境を整備する。 ・パソコンや情報機器のマルチメディア性を生かし、教育活動の情報化を推進する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学習室、マルチメディアラウンジの電子黒板や、情報処理演習室、マルチメディアラウンジのパソコンも有効に活用されている。 ・図書室では蔵書数や映像教材の更なる充実を図っている。 ・各教室に設置された電子黒板は、ほぼ全教科において活用されるようになった。 ・自習室については、進路指導部と高等部3年学年団が担当し活用している。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の「Kamakura Beyond Project」などの活動を考慮し、現在使用している情報処理演習室、マルチメディアラウンジ、学習支援センターE教室の他にも、パソコンの台数・場所共に計画的に増やしていくことを検討している。 ・情報処理演習室と学習支援センターE教室は、通常は施錠されているため、生徒が自由に使用できるマルチメディアラウンジにパソコンについては、常に全てのパソコンが稼働できるように、整備を検討している。 ・教育活動でのパソコンや情報機器を利用した情報化は進んでいるが、利用方法については更なる工夫や開発を検討する。また、それらを共有するためのシステムづくりを進めていく。

13. 事務支援体制

13-①	・高等部の教育活動における支援が適切に行われているか。
取組目標	・日常業務における事務支援体制全体の強化を図る。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口での来校者や電話での各種問合せについては、「窓口は学園の顔」という言葉を常に意識し、適切かつ丁寧な対応に努めた。 ・業者支払いの勘定伝票や預り金についての帳票を初等・中等教育支援室で作成することで、事務処理の合理化・厳格化に貢献した。校友会費処理についても、経理部の指導のもと、改善を進めた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も外部との対応に関して、引き続き適切かつ丁寧な対応を心掛ける。 ・預り金の厳格化については、経理部や総務部、各部と連携し、引き続き対応を図っていく。 ・昼食時におけるカフェテリアでの食事の提供について、総務部や担当各部と相談し、平成30（2018）年度より取扱業者の見直しを行う予定である。

14. 自己点検・評価

14-①	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価が年に1回以上定期的に実施されているか。 ・全教職員が評価に関与しているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末において当該年度に実施した教育内容について、振り返りを行うことで、次年度に生かせるように自己点検・評価を実施する。 ・自己点検・評価報告書の作成にあたっては、分掌主任を中心に中・高等部の全教職員で行う。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・各点検項目にしたがって分掌主任や教科主任を中心に、実施したすべての教育内容について細部にわたりその内容や成果、達成状況を点検することで、次年度の改善につなげることを目指した。 ・報告書の作成においては、部長・次長と分掌主任を中心に教科主任や学年主任から指示する形で、全教員が振り返りをし、次年度の工夫や改善に生かすことができるようにした。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者には年度末に執筆を依頼し、次年度の初めまでを期限としているが、成績処理と残務整理に加え、次年度への準備も入る時期であるため、点検項目などは年度の始めに決定し、担当者が実施済のものから点検・執筆していく。

14-②	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の結果が具体的な学校運営の改善に活用されているか。
取組目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検・評価の結果を受けて、改善すべき点は次年度に生かす。 取組内容に関して成果が表れているものについては、さらに工夫を凝らしながら次年度以降も継続して実施する。
取組内容 と成果	<ul style="list-style-type: none"> 前例踏襲を是とせず、現状に即した取り組みを行うことができた。 成果に結びついていない、又は目に見える結果が表れていない教育内容については十分な検討を重ねた上で、代替策を講じることにつなげた。 教育内容について細部にわたりその内容の一つひとつを点検することで、明らかに次年度の教育活動に生かすことができた。
今後の課題 と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 教育内容のなかにはすぐには結果に結びつかないものがあるため、引き続き次年度も実施すべき教育内容か否かは十分吟味を重ねていく。